

令和2年度

推薦入試学生募集要項



国立大学法人秋田大学
Akita University

推薦入試への出願について

- 1 国公立大学の推薦入試（大学入試センター試験を課す場合、課さない場合を含めて）への出願は、一つの大学・学部に限られています。
ただし、一つの大学・学部の推薦入試募集単位（学科・課程・専攻・コース等）について、大学入試センター試験を課さない推薦入試で不合格となった場合は、同一の学科・課程・専攻・コース等の大学入試センター試験を課す推薦入試に出願することができます。
したがって、本学の場合、教育文化学部の学校教育課程教育実践コースの推薦入試Ⅰで不合格になった場合に、同一の学校教育課程教育実践コースの推薦入試Ⅱに出願することができます。
- 2 推薦入試で不合格となった場合に備えて、本学または他の国公立大学・学部の一般入試等（前期日程から一つ、中期日程から一つ、および後期日程から一つの合計三つの大学・学部）に出願しておくことは、差し支えありません。
なお、本学の一般入試に出願する場合は、大学入試センター試験の受験を要する教科・科目などに推薦入試と違いがありますので、別途「令和2年度一般入試学生募集要項」等で必ず確認してください。
- 3 本学の推薦入試実施学部・学科・課程等および日程

1) 推薦入試を実施する学部・学科・課程等

○推薦入試Ⅰ（大学入試センター試験を課さないもの）

実施学部	学科・課程	コース
教育文化学部	学校教育課程	教育実践コース
	地域文化学科	

○推薦入試Ⅱ（大学入試センター試験を課すもの）

実施学部	学科・課程	専攻・コース
国際資源学部	国際資源学科	資源政策コース、資源地球科学コース、資源開発環境コース
教育文化学部	学校教育課程	教育実践コース、英語教育コース、理数教育コース、こども発達コース
医学部	医学科	
	保健学科	看護学専攻、理学療法学専攻、作業療法学専攻
理工学部	生命科学科	生命科学コース
	物質科学科	応用化学コース、材料理工学コース
	数理・電気電子情報学科	数理科学コース、電気電子工学コース、人間情報工学コース
	システムデザイン工学科	機械工学コース、土木環境工学コース

2) 推薦入試実施日程

区分	推薦入試Ⅰ	推薦入試Ⅱ
出願期間	令和元年11月1日（金） ） 令和元年11月6日（水）	令和元年12月12日（木） ） 令和元年12月18日（水）
試験日	令和元年11月23日（土）	令和2年1月23日（木）【医学部医学科】 令和2年1月24日（金）【全学部】 （医学部医学科の一般枠は23日（木）のみ）
合格者発表	令和元年12月9日（月）	令和2年2月10日（月）
入学手続期間		令和2年2月18日（火） ） 令和2年2月19日（水）

入学志願者の個人情報保護について

本学では、提出された出願書類から志願者の個人情報を取得し、また、入学試験の実施により受験者の個人情報を取得しますが、これらの個人情報は、下記の目的で利用します。

【利用目的】

- 入学者選抜に関する業務（統計処理などの付随する業務を含む。）に利用します。
- 入学手続完了者にあつては、入学後の学籍管理、学習指導、学生支援関係業務および授業料徴収業務に利用します。

目 次

秋田大学の理念と基本的な目標	1
秋田大学および各学部のアドミッション・ポリシー	
秋 田 大 学	1
国際資源学部	2
教育文化学部	5
医 学 部	11
理 工 学 部	15

◇◇◇ 推薦入試Ⅰ ◇◇◇

1 募集人員（推薦入試Ⅰ）	25
2 推薦の要件	25
3 選抜方法	26
4 試験の日程	27
5 試験場	27
6 受験上の注意事項	27
7 出願手続	28
8 合格者の発表	29
9 入学手続	29

◇◇◇ 推薦入試Ⅱ ◇◇◇

1 募集人員（推薦入試Ⅱ）	31
2 推薦の要件	31
3 選抜方法等	
(1) 選抜方法および採点・評価の観点、基準等	34
(2) 大学入試センター試験の受験を要する教科・科目および注意事項	36
(3) 大学入試センター試験および個別学力検査等の配点	40
(4) 合格者の決定方法	41
4 試験の日程	41
5 試験場	42
6 受験上の注意事項	42
7 出願手続	43
8 合格者の発表	44
9 入学手続	44
10 個人の成績等の開示	44

◇◇◇ 共通事項（推薦入試Ⅰ・Ⅱ） ◇◇◇

1 国際資源学部の入学志願者へ	47
2 教育文化学部の入学志願者へ	47
3 配慮を必要とする入学志願者の事前相談について	47
4 検定料免除について	49
5 入学料免除・徴収猶予および授業料免除について	50
6 秋田大学「新入生育英奨学資金」について	51
7 学生寮について	52
8 入学手続について	53
9 試験場の案内	54

添付書類等（透明封筒にそれぞれ次の書類が入っています。）

- ① 入学志願票・電算処理原票（推薦入試Ⅱのみ）・受験票・写真票
- ② 検定料収納証明書貼付台紙
- ③ 入学検定料支払方法のご案内
- ④ 推薦書
- ⑤ 推薦書記入上の注意
- ⑥ あて名票
- ⑦ 受験票送付用封筒
- ⑧ 志願理由書
- ⑨ 実技検査調書
- ⑩ スポーツ活動の調書（推薦入試Ⅰのみ）
- ⑪ 地域連携・国際交流活動内容記載書（推薦入試Ⅰのみ）
- ⑫ 地域連携・国際交流活動内容記載書記入上の注意（推薦入試Ⅰのみ）
- ⑬ 課外活動報告書（推薦入試Ⅱのみ）
- ⑭ 出願用封筒

秋田大学の理念と基本的な目標

基本理念

- 国際的な水準の教育・研究を遂行します。
- 地域の振興と地球規模の課題の解決に寄与します。
- 国の内外で活躍する有為な人材を育成します。

基本的な目標

1. 教育においては、質の国際通用性を高め、地域と世界の諸課題の解決に取り組む人材を育成する。
2. 研究においては、地域の特性を活かした研究とグローバルな課題に対応する研究に取り組むことにより、イノベーションの創出を推進し、その成果を継続的に地域と世界に発信する。
3. 社会連携においては、教育研究成果を地域社会に還元し、地域と協働した地域振興策の取組を推進するとともに、地域医療の中核的役割を担う。
4. 国際化においては、資源産出国を中心とした諸外国の留学生・研究者との学術交流を推進するとともに、学生や教職員の海外留学・派遣を促進する。
5. 大学経営においては、学長主導の下、学生及び教職員一人ひとりの活力を相乗的に高めた組織文化を浸透させ、透明性を確保した健全で効率的な大学経営を目指す。

『全学の入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）』

秋田大学では、21世紀の日本ならびに国際社会において、指導的な役割を担うことができる人材の育成を目指しています。このため秋田大学は、学生が幅広い教養と深い専門性、そして高い倫理性に裏付けられた豊かな人間力を涵養できることを全学の教育目標としています。

このような目標のもと、次のような資質や意欲をもった人を、入学者として求めています。

1. 学問への探求心を持ち、その発展に主体性と創造性を持って尽くしたい人
2. 学士課程教育を受けるにふさわしい基礎的な知識・技能と、それらを活用して課題解決するために必要な思考力・判断力・表現力を持った人
3. 地域社会や国際社会の諸課題を理解し、その解決に寄与したい人

『各学部・課程・学科等の入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）』

学部、学科、課程等の入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）は、下記の項目によって成り立っており、入学を希望する人に求める能力や資質を具体的に示しています。

●育てる人間像と求める人物像

※高等学校等で修得すべき具体的な内容

●入学者選抜の基本方針（どのような力を評価するか）

●入学者選抜における重点評価項目

※学力の3要素

- ・「基礎的な知識・技能」
- ・「知識・技能を活用して、自ら課題を発見しその解決に向けて探求し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力」
- ・「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度（主体性・多様性・協働性）」

【国際資源学部】

[国際資源学科]

◆育てる人間像

国際資源学部では、地球規模となった資源問題の解決を目指し、豊かな人間性と国際的視野を併せ持ち、新たな資源技術と将来の資源・エネルギー戦略の発展・革新を担う人材を育成します。

●求める人物像

1. 資源・エネルギー・環境問題への強い関心を持ち、その解決策をねばり強く、柔軟に思考・探求できる人
2. 自然科学と人文社会科学の両面から資源問題を総合的に捉え、実務家、技術者、研究者として社会の発展に貢献したいという意欲を持ち、新たな課題へ立ち向かうチャレンジ精神のある人
3. 国際的に通用する論理的思考力と判断力および外国語による表現力とコミュニケーション能力を身につけ、グローバルなフィールドで活躍しようとする人

《資源政策コース》

●求める人物像

1. 資源・エネルギー・環境等の地球全体の課題に関心を持ち、持続可能な社会形成に貢献したいと思っている人
2. 国際社会の様々な分野で活躍したいと考えている人
3. 多様な価値観を持つ人々との交流に強い関心を持っている人

※高等学校等で修得すべき具体的な内容

国 語—多様な価値観の理解に求められるコミュニケーション能力、表現力、読解力

英 語—国際社会で活躍するために基礎となるコミュニケーション能力、表現力、読解力

数学・理科—自然科学に対する基礎学力と論理的思考能力

地 理 歴 史—世界の文化・歴史・産業に対する関心の高さと理解力

●入学者選抜の基本方針

《推薦入試Ⅱ》

十分な基礎学力を持ち、資源問題に関わる国際社会の動向に対する興味と強い学習意欲を有し、かつ高等学校等において学業・課外活動に優れた成績を修め、豊かな人間性と創造性を備えた人を求めます。

そのため、大学入試センター試験で「知識・教養」「思考力・判断力」を評価し、個別学力検査等として地理歴史の口頭試問を含めた面接を課して「知識・教養」に加えて、学ぶことへの「関心・意欲」と「表現力」を重視した評価を行います。資源政策コースがカバーする専門分野を学ぶために必要な知識と思考力、専門分野への関心の高さおよび表現力・コミュニケーション能力を備えた人を総合的に選抜します。

●入学者選抜方法における重点評価項目（入学者選抜方法と求める人物像の関係性）

入学者選抜方法	該当選抜区分	関心・意欲・態度	表現力	知識教養	思考力判断力	協働性
センター試験	推薦入試Ⅱ			○	○	
面接 (口頭試問含む)	推薦入試Ⅱ	○	○	○	○	
調査書 推薦書	推薦入試Ⅱ	○				○

《資源地球科学コース》

●求める人物像

1. 自然現象への好奇心が強く、地球の成り立ちを解明することや新たな資源を探求することに挑戦する意欲のある人
2. 物事を深く洞察し、野外調査や実験にねばり強く取り組める人
3. 将来、地下資源探査・開発に関わる技術者として、または資源地球科学分野の研究者として国際的に活躍したい人

※高等学校等で修得すべき具体的な内容

- 国語—文章を読む読解力，論理的な思考力，自分の考えを表現できる表現力
- 英語—英語の読解力と基礎的なコミュニケーション能力
- 数学—数学の基本的な概念の理解と計算力
- 地理歴史—国内外で活躍するために必要な基本的な知識，教養
- 理科—物理，化学，生物，または地学分野の内容の理解と科学的探究心

●入学者選抜の基本方針

《推薦入試Ⅱ》

十分な基礎学力を持ち、地球の成り立ち、地質や岩石などの地球科学に対する知的な好奇心と強い学習意欲を有し、かつ高等学校等において学業・課外活動に優れた成績を修め、豊かな人間性と創造性を備えた人を求めます。

そのため、大学入試センター試験で「幅広い知識と教養」、「思考力・判断力」を評価し、個別学力検査等として理科（物理，化学，地学から選択）の口頭試問を含めた面接を課して「専門分野についての関心と意欲」、「理科の基礎知識と教養」、「論理的に考え、説明できる思考力，判断力，表現力」、「協働性などの人間性」を評価します。

●入学者選抜方法における重点評価項目（入学者選抜方法と求める人物像の関係性）

入学者選抜方法	該当選抜区分	関心・意欲・態度	表現力	知識教養	思考力判断力	協働性
センター試験	推薦入試Ⅱ			○	○	
面接 (口頭試問含む)	推薦入試Ⅱ	○	○	○	○	○
調査書 推薦書	推薦入試Ⅱ	○				○

《資源開発環境コース》

●求める人物像

1. 資源の探査，資源・エネルギーの生産手法，リサイクルなどに強い興味を持つ人
2. 多様な観点で物事を観察し，新たな価値の創造へ果敢に挑戦する意欲を持つ人
3. 自然環境と調和した技術やシステムの開発を実現し，環境に配慮した資源開発と資源循環型社会の創出に貢献したい人

※高等学校等で修得すべき具体的な内容

国語・英語—国際社会で活躍するための基礎となるコミュニケーション能力，読解力，思考力，表現力

数 学—「数学Ⅰ」，「数学Ⅱ」，「数学Ⅲ」，「数学A」，「数学B」における内容の理解と数学的応用力，論理的な思考力

地歴・公民—地理歴史，公民における基礎知識と世界的な視点に基づく地理，歴史，文化・制度，政治・経済などを通じた考察力

理 科—物理，化学，生物または地学分野における内容の理解と自然科学を理解するための知識の活用と思考力

●入学者選抜の基本方針

《推薦入試Ⅱ》

十分な基礎学力を持ち，資源開発，地球環境問題，エネルギーやリサイクルに対する興味と強い学習意欲を有し，かつ高等学校等において学業・課外活動に優れた成績を修め，豊かな人間性と創造性を備えた人を求めます。

そのため，大学入試センター試験で「知識・教養」と「思考力・判断力」を評価し，個別学力検査等では理科（物理，化学から選択）の口頭試問を含めた面接を課して「知識・教養」，「思考力・表現力」，「関心・意欲・態度」，「主体性・協働性」を評価します。資源開発環境分野を学ぶために必要な知識と能力，学習意欲を有する人を総合的に選抜します。

●入学者選抜方法における重点評価項目（入学者選抜方法と求める人物像の関係性）

入学者選抜方法	該当選抜区分	関心・意欲・態度	表現力	知識教養	思考力判断力	協働性
センター試験	推薦入試Ⅱ			○	○	
面接 (口頭試問含む)	推薦入試Ⅱ	○	○	○	○	○
調査書 推薦書	推薦入試Ⅱ	○				○

【教育文化学部】

◆育てる人間像

教育文化学部では人間存在をめぐる現代的課題を総合的に探究し、教員および新たな生活文化の創造を担う人材を育成します。

[学校教育課程]

●求める人物像

多様な教育的諸課題に対処できるように、豊かな人間性と専門的知識・技術、幅広い教養を基盤とする実践的な指導力を備えた教員を目指す強い意志のある人を求めています。

《教育実践コース》

●求める人物像

1. 学校の教員として働こうとする強い意志のある人
2. 子どもに対する理解と教育に強い情熱を持つ人
3. 学校教育のさまざまな課題に積極的に取り組もうとする意欲のある人

※高等学校等で修得すべき具体的な内容

国語—国語を適切に表現し的確に理解する能力、伝え合う力、思考力・想像力と、言語文化に対する関心および国語を尊重する態度

英語—言語や文化に対する理解と、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする英語コミュニケーション能力

数学—数学の基本的な概念や原理・法則についての体系的な理解と、それらを活用し、数学的論拠に基づいて判断する態度

地歴・公民—日本および世界の歴史と生活・文化の地域的特色についての理解と、国際社会で主体的に生き平和で民主的な国家・社会を形成する公民的資質

理科—自然の事物・現象に対する関心や探究心と、そのために必要な科学的に探究する能力と態度、および、自然の事物・現象についての理解と科学的な自然観

保健体育・芸術—実技実践能力を養うために求められる知識、技術力や表現力

●入学者選抜の基本方針

《推薦入試Ⅰ》

高等学校等において学業・課外活動に優れた成績を修め、論理的思考能力と保健体育分野で優れた能力を有し、豊かな人間性と教員になる強い意志を持つ人を求めます。

そのため、個別学力検査等として小論文、実技検査（体育）および面接（口頭試問を含む）を課して「理解力・論理的思考能力・文章表現力、運動技能、意欲、および基礎的教養」を評価します。

《推薦入試Ⅱ》

十分な基礎学力を持つとともに高等学校等において学業・課外活動に優れた成績を修め、論理的思考能力や音楽、美術の分野で優れた能力を有し、教員になる強い意志を持つ人を求めます。

そのため、大学入試センター試験で「各教科内容に関連した「知識・教養」「思考力・

判断力」を評価し、個別学力検査等として「小論文および面接」または「実技検査（音楽・美術）および面接」を課して「教員に求められる基礎的教養とコミュニケーション能力、教育に対する情熱と意欲および技能」を評価します。

●入学者選抜方法における重点評価項目（入学者選抜方法と求める人物像の関係性）

入学者選抜方法	該当選抜区分	関心・意欲・態度	表現力	知識教養	思考力判断力	協働性	技能
センター試験	推薦入試Ⅱ			○	○		
個別学力検査《実技》	推薦入試Ⅰ 推薦入試Ⅱ	○	○				○
小論文	推薦入試Ⅰ 推薦入試Ⅱ	○	○	○	○		
面接（口頭試問含む）	推薦入試Ⅰ 推薦入試Ⅱ	○	○	○	○	○	
調査書 推薦書	推薦入試Ⅰ 推薦入試Ⅱ	○		○		○	
実技検査調書・ 志願理由書	推薦入試Ⅰ	○				○	

《英語教育コース》

●求める人物像

1. 教員となることを強く希望し、理論的知識を身につけ実践的能力を養うことに積極的に取り組もうとする人
2. 英語教育について高い関心があり、英語教育のさまざまな教育課題に積極的に取り組もうとする人
3. 英語力を向上させることについて意欲と情熱を持ち、学習する機会を積極的に捉え、英語力を伸ばすための努力を惜しまない人
4. グローバル社会における異文化間コミュニケーションの重要性を意識し、自ら進んで外国の人々とのコミュニケーションを図ろうとする人

※高等学校等で修得すべき具体的な内容

- 国語—国語を適切に表現し的確に理解する能力、伝え合う力、思考力・想像力と、言語文化に対する関心および国語を尊重する態度
- 英語—言語や文化に対する理解と、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする英語コミュニケーション能力
- 数学—数学の基本的な概念や原理・法則についての体系的な理解と、それらを活用し、数学的論拠に基づいて判断する態度
- 地歴・公民—日本および世界の歴史と生活・文化の地域的特色についての理解と、国際社会で主体的に生き平和で民主的な国家・社会を形成する公民的資質
- 理科—自然の事物・現象に対する関心や探究心と、そのために必要な科学的に探究する能力と態度、および、自然の事物・現象についての理解と科学的な自然観

●入学者選抜の基本方針

《推薦入試Ⅱ》

十分な基礎学力と英語運用能力を身につけており、高等学校等において優れた学業成

績を修め、かつ英語による論理的思考力および表現力を強味として、グローバル社会に通用する英語教育を追究する人を求めます。

そのため、大学入試センター試験で「各教科内容に関連した「知識・教養」「思考力・判断力」」を評価し、個別学力検査等として小論文（英文）および面接（英語スピーキングテスト）を課して「英語による論理的思考力，豊かな表現力，国際的視野，英語教育に対する関心・意欲」を評価します。

●入学者選抜方法における重点評価項目（入学者選抜方法と求める人物像の関係性）

入学者選抜方法	該当選抜区分	関心・意欲・態度	表現力	知識・教養	思考力・判断力	協働性
センター試験	推薦入試Ⅱ			○	○	
小論文	推薦入試Ⅱ		○		○	
面接	推薦入試Ⅱ	○	○		○	○
調査書 推薦書	推薦入試Ⅱ	○		○		○

《理数教育コース》

●求める人物像

1. 教員となることを強く希望する人
2. 理科教育・数学教育の現代的な諸課題の解決に向けて積極的に取り組もうとする意欲のある人
3. 自然科学に興味や関心を持ち，実験や観察を通じた理科教育に熱意のある人
4. 数学への理解を深め，数学の学習を通して，自然や社会に対して自ら進んで論理的に考える態度を育てたい人

※高等学校等で修得すべき具体的な内容

- 国語—国語を適切に表現し的確に理解する能力，伝え合う力，思考力・想像力と，言語文化に対する関心および国語を尊重する態度
- 英語—言語や文化に対する理解と，情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする英語コミュニケーション能力
- 数学—数学（数学Ⅲを含む）の基本的な概念や原理・法則についての体系的な理解と，それらを活用し，数学的論拠に基づいて判断する態度
- 地歴・公民—日本および世界の歴史と生活・文化の地域的特色についての理解と，国際社会で主体的に生き平和で民主的な国家・社会を形成する公民的資質
- 理科—自然の事物・現象に対する関心や探究心と，そのために必要な科学的に探究する能力と態度，および，自然の事物・現象についての理解と科学的な自然観

●入学者選抜の基本方針

《推薦入試Ⅱ》

十分な基礎学力を持つとともに高等学校等において優れた学業成績を修め，なおかつ理数教育コースでの学習および教員の仕事に高い関心と意欲を持つ人を求めます。

そのため、大学入試センター試験で「知識・技能，思考力，判断力」を評価し，個別学力検査等として数学あるいは理科の試問を含む面接を課して，「論理的思考力，表現力，理数教育に対する関心・意欲」を評価します。

●入学者選抜方法における重点評価項目（入学者選抜方法と求める人物像の関係性）

入学者選抜方法	該当選抜区分	関心・意欲・態度	表現力	知識・教養	思考力・判断力	協働性
センター試験	推薦入試Ⅱ			○	○	
面接 (試問含む)	推薦入試Ⅱ	○	○	○	○	○
調査書 推薦書	推薦入試Ⅱ	○		○		○

《こども発達コース》

●求める人物像

1. 幼稚園・保育関連施設・小学校の仕事に携わることを強く希望する人
2. 子どもに対する理解と教育・保育に強い情熱を持つ人
3. 乳幼児期から児童期の子どもに関わるさまざまな教育・保育課題や、子どもへの発達支援に積極的に取り組もうとする意欲のある人

※高等学校等で修得すべき具体的な内容

- 国 語—国語を適切に表現し的確に理解する能力、伝え合う力、思考力・想像力と、言語文化に対する関心および国語を尊重する態度
- 英 語—言語や文化に対する理解と、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする英語コミュニケーション能力
- 数 学—数学の基本的な概念や原理・法則についての体系的な理解と、それらを活用し、数学的論拠に基づいて判断する態度
- 地歴・公民—日本および世界の歴史と生活・文化の地域的特色についての理解と、国際社会で主体的に生き平和で民主的な国家・社会を形成する公民的資質
- 理 科—自然の事物・現象に対する関心や探究心と、そのために必要な科学的に探究する能力と態度、および、自然の事物・現象についての理解と科学的な自然観

●入学者選抜の基本方針

《推薦入試Ⅱ》

高等学校等において学業・課外活動に優れた成績を修め、こども発達コースでの学習および子どもに関連した教育・保育施設での仕事に高い関心と意欲を持つとともに、論理的思考力、読解力、表現力に優れた人を求めます。

そのため、大学入試センター試験で「各教科内容に関連した「知識・教養」「思考力・判断力」」を評価し、個別学力検査等として小論文と面接を課して「こども発達コースでの学習および子どもに関連した教育・保育施設での仕事に対する関心・意欲と、論理的思考力、読解力、表現力」を評価します。

●入学者選抜方法における重点評価項目（入学者選抜方法と求める人物像の関係性）

入学者選抜方法	該当選抜区分	関心・意欲・態度	表現力	知識教養	思考力判断力	協働性
センター試験	推薦入試Ⅱ			○	○	
面接 (口頭試問含む)	推薦入試Ⅱ	○	○	○	○	○
調査書 推薦書	推薦入試Ⅱ	○		○		○

[地域文化学科]

●求める人物像

1. 地域社会の将来を展望し、行政・経済・生活・文化などの各方面において地域の活性化に貢献したいという強い情熱のある人
2. 地域の抱えるさまざまな問題に対して、人文・社会科学や生活科学、自然科学、情報科学、心理学の総合的な成果を踏まえて分析し、これに実践的に応えていこうという意欲のある人
3. 地域の特性・伝統を理解しながら、日本および世界の歴史・文化に対しても幅広い関心を有し、学業で得た知識・経験を積極的に活用し、地域文化の継承・発展に取り組もうという意欲のある人
4. 地域情報を世界に向けて発信し、世界の各地域との交流を促進しようという意欲のある人

※高等学校等で修得すべき具体的な内容

- 国語—国語を適切に表現し的確に理解する能力、伝え合う力、思考力・想像力と、言語文化に対する関心および国語を尊重する態度
- 英語—言語や文化に対する理解と、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする英語コミュニケーション能力
- 数学—数学の基本的な概念や原理・法則についての体系的な理解と、それらを活用し、数学的論拠に基づいて判断する態度
- 地歴・公民—日本および世界の歴史と生活・文化の地域的特色についての理解と、国際社会で主体的に生き平和で民主的な国家・社会を形成する公民的資質
- 理科—自然の事物・現象に対する関心や探究心と、そのために必要な科学的に探究する能力と態度、および、自然の事物・現象についての理解と科学的な自然観

●入学者選抜の基本方針

《推薦入試Ⅰ》

豊かで個性的な人間性を持ち、高等学校等において学業・課外活動に優れた成績を修め、かつ論理的思考力や表現力を持つとともに地域貢献に強い関心を持ち、行動しているあるいはしようとする人を求めます。

そのため、個別学力検査等として、一般枠は小論文および面接（口頭試問を含む）、地域連携・国際交流枠は面接（口頭試問・プレゼンテーション（資料の使用も可とするが、パソコン等の機材はこちらでは準備しない。）を含む）を課して「幅広い知識・教養に基づく論理的思考力・判断力と読解力や表現力を含む言語運用能力、コミュニケーション能力および地域貢献への意欲」を評価します。

※ 地域連携・国際交流枠とは、地域の方々と連携した活動または国際交流活動を主体的・継続的に行っている人を受け入れる募集枠です。学校・地方自治体・民間財団などでの活動をきっかけとしたものでも構いませんが、学校での授業および部活動のみの活動は、この枠に該当しません。

地域連携活動とは地域社会の人々との協働という要素を含む活動を意味します。想定される具体例のいくつかを挙げます。

- 地域の人々と協働して祭の企画・運営・実行などの活動に継続的に参加している。
- 地域ボランティアとして施設訪問などを継続的に行っている。
- 地域のスポーツ団体等で活動やその補助を継続的に行っている。

以上のような活動を1年以上行っていることを必要とします。

国際交流活動としては以下のようなものが想定されます。

- 海外研修などを体験し、帰国後も継続的に交流活動を続けている。
- 留学生の受け入れなどを経験し、その後も継続的に交流を続けている。
- 団体等において継続的に外国人との交流活動を行っている。

主体的・継続的な国際交流活動であれば、活動期間は問いません。

また、高校時代とは異なる活動になっても構いませんが、大学入学後も地域連携活動あるいは国際交流活動を継続することが条件となっています（入学後も、毎年活動報告書を提出していただきます）。

●入学者選抜方法における重点評価項目（入学者選抜方法と求める人物像の関係性）

入学者選抜方法	該当選抜区分	関心・意欲・態度	表現力	知識教養	思考力判断力	協働性
小論文	推薦入試 I		○	○	○	
面接 (口頭試問・プレゼンテーションを含む)	推薦入試 I	○	○	○	○	○
調査書 推薦書	推薦入試 I	○		○		○
志願理由書 活動内容記載書	推薦入試 I	○	○	○		○

【医学部】

◆育てる人間像

医学部では、豊かな教養に支えられた人間性と高い倫理観および学問の進歩に対応しうる柔軟な適応能力と課題探求・問題解決能力を養い、医学・健康科学に対する十分な理解のもとに、人々の健康と医療・福祉に貢献できる国際的視野を備えた使命感にあふれる人材を育成します。

●求める人物像

1. 病気に悩む人々の痛みや苦しみを理解し真摯な態度で接することができる人
2. 医療・保健・福祉の発展を目指して一生涯にわたり医学の研鑽にたゆみない努力を継続できる人
3. 素直で協調性に富み、周囲の人々と円滑な人間関係を築けるコミュニケーション能力を持つ人

[医学科]

●求める人物像

1. 地域医療への理解と共感を有し、将来の医師としての強い倫理観を持ち、住民の健康・福祉に寄与できる人
2. 基礎および臨床医学や社会医学の研究に深い関心を持ち、国際性を備えた研究者としての資質を有する人
3. 大学入学後の学業に支障ないだけの隔たりのない基礎学力を持ち、生命科学に対する関心を持つ将来性豊かな人

※高等学校等で修得すべき具体的な内容

- | | |
|-------|---|
| 国 | 語—文化・社会の理解に求められる読解と表現に関わる幅広い基礎知識およびコミュニケーション能力 |
| 英 | 語—国際社会に求められる読解と表現に関わる幅広い基礎知識およびコミュニケーション能力 |
| 数 | 学—「数学Ⅰ」、「数学Ⅱ」、「数学Ⅲ」、「数学A」、「数学B」における内容の理解とそれらを活かせる数学的思考力 |
| 地歴・公民 | —将来、地域や国際社会で良識をもった人間として活躍するために必要な知識や教養 |
| 理 | 科—「生物」「化学」および「物理」の幅広い知識と科学的な探究心 |
| そ の 他 | —ストレスに負けない体力と精神力、周囲の人々との協調性 |

●入学者選抜の基本方針

《推薦入試Ⅱ》

高等学校等において学業その他に優れた成績を修め、感性豊かな人間性を持ち、他者に対するいたわりと共感する心を有するとともに、医療・医学への研究志向を有する知的好奇心に満ちた学生を求めます。

そのため、大学入試センター試験で「知識・教養」「思考力・判断力」を評価し、個別学力検査等として、小論文と面接を課して「関心・意欲・態度」「表現力」「知識・教養」「思考力・判断力」「協調性」「将来性」を評価します。

地域枠による選抜については、秋田県修学資金受給の意思、卒業後に秋田県内の公的

医療機関に勤務する意欲，地域医療の充実と向上に貢献する気概と意欲の有無を重視して選抜します。

●入学者選抜方法における重点評価項目（入学者選抜方法と求める人物像の関係性）

入学者選抜方法	該当選抜区分	関心・意欲・態度	表現力	知識教養	思考力判断力	協調性	将来性
センター試験	推薦入試Ⅱ			○	○		
小論文	推薦入試Ⅱ	○	○	○	○		
面接	推薦入試Ⅱ	○	○		○	○	○
調査書 推薦書	推薦入試Ⅱ	○				○	○

[保健学科]

《看護学専攻》

●求める人物像

1. 看護学に関する高い関心と看護職として人々の健康や生活を支えたいという意欲を持つ人
2. 豊かな人間性と協調性を備え，高い倫理性を育んでいける人
3. 十分な基礎学力を持ち，探究心を持って主体的に学習できる人

※高等学校等で修得すべき具体的な内容

- 国語—文章の的確な理解と論理的に思考し表現する力，およびコミュニケーション能力
- 英語—読解・表現に関わる幅広い基礎知識と英語でコミュニケーションをとろうとする積極性
- 数学—数学の基本的原理・法則の理解，正確な計算力と論理的な思考力
- 地歴・公民—地域社会の地理的・歴史的背景や仕組みを理解する力と社会情勢の変化に対する関心
- 理科—生命現象や自然の諸現象を科学的に考察し説明する能力

●入学者選抜の基本方針

《推薦入試Ⅱ》

十分な基礎学力を持ち，看護学に対する興味と学習意欲を持ち，かつ高等学校等において学業・課外活動に優れた成績を修めた人を求めます。さらに，基本的コミュニケーション能力と他者に対して共感する心を持った協調性のある人を求めます。

そのため，大学入試センター試験で「総合的な基礎学力」を評価し，個別学力検査等として面接を課し，調査書を加えて「関心・意欲・態度」「表現力」「知識」「思考力・判断力」「協調性」を評価します。

●入学者選抜方法における重点評価項目（入学者選抜方法と求める人物像の関係性）

入学者選抜方法	該当選抜区分	関心・意欲・態度	表現力	知識	思考力判断力	協調性
センター試験	推薦入試Ⅱ			○		
面接	推薦入試Ⅱ	○	○		○	○
調査書 推薦書	推薦入試Ⅱ	○		○		○

《理学療法学専攻》

●求める人物像

1. 理学療法学に対する強い関心や学習意欲を持つ人
2. 地域住民の健康増進や福祉に寄与したいとする意志と豊かな人間性を持つ人
3. グローバルな視野を持ち、科学的探究心の強い人

※高等学校等で修得すべき具体的な内容

国語・英語—地域社会や国際的分野において活躍できるための基礎的なコミュニケーション能力，読解力，思考力

数 学—数学の基本的な概念や原理・法則の理解，計算力と論理的な思考力

地歴・公民—地域や国際社会で良識を持った人間として活躍するために必要な知識や素養

理 科—全般的な基礎知識と科学的な探究心

●入学者選抜の基本方針

《推薦入試Ⅱ》

十分な基礎学力を持ち、理学療法学に対する興味と学習意欲を持ち、かつ高等学校等において学業・課外活動に優れた成績を修め、人間性に優れ、保健・医療・福祉に対して関心の高い人を求めます。

そのため、大学入試センター試験で「総合的な基礎学力」を評価し、個別学力検査等として、小論文と面接を課し、調査書を加えて「思考・判断力」「関心・意欲・態度」「知識」「協調性」を評価します。

●入学者選抜方法における重点評価項目（入学者選抜方法と求める人物像の関係性）

入学者選抜方法	該当選抜区分	関心・意欲・態度	表現力	知識	思考力判断力	協調性
センター試験	推薦入試Ⅱ			○		
小論文	推薦入試Ⅱ		○		○	
面接	推薦入試Ⅱ	○	○		○	○
調査書 推薦書	推薦入試Ⅱ	○		○		○

《作業療法学専攻》

●求める人物像

1. 作業療法学に興味・関心があり、学習意欲と論理的思考能力を持つ人
2. 国際的な視野を持ち、科学的探究心の強い人
3. 他者をよく理解し、細やかな配慮や行動・発言ができる人

※高等学校等で修得すべき具体的な内容

国語・英語—地域社会や国際的分野において活躍できるための基礎的なコミュニケーション能力、読解力、思考力

数 学—数学の基本的な概念や原理の理解、計算力と論理的な思考力

地歴・公民—将来、地域や国際社会で良識をもった人間として活躍するために必要な幅広い知識と教養

理 科—一般的な基礎知識と科学的な探究心

●入学者選抜の基本方針

《推薦入試Ⅱ》

十分な基礎学力と対人技能としての優れたコミュニケーション能力を持ち、作業療法学に対する興味と学習能力を持ち、かつ高等学校等において学業・課外活動に優れた成績を修め、人間性に優れた人を求めます。

そのため、大学入試センター試験で「総合的な基礎学力」を評価し、個別学力検査等として、小論文と面接を課し、調査書を加えて「人間性と作業療法学に対する興味・関心、論理的な思考能力および対人技能としてのコミュニケーション能力」を評価します。

●入学者選抜方法における重点評価項目（入学者選抜方法と求める人物像の関係性）

入学者選抜方法	該当選抜区分	関心・意欲・態度	表現力	知識	思考力判断力	協調性
センター試験	推薦入試Ⅱ			○		
小論文	推薦入試Ⅱ		○		○	
面接	推薦入試Ⅱ	○	○		○	○
調査書 推薦書	推薦入試Ⅱ	○		○		○

【理工学部】

◆育てる人間像

理工学の分野においては、人材育成と研究開発の「リージョナルセンター」として、創造力と技術力を兼ね備えた人材を供給するとともに、イノベーション創出により地域産業に更なる発展をもたらすことが期待されています。理工学部では、自ら課題を発見でき、新しい未知の分野の課題に対しても幅広い視野から、柔軟で総合的な判断で課題を解決していける人材を育成します。

●求める人物像

1. 理工学を学ぶために必要な基礎学力を身につけた人
2. エネルギー・環境問題、新しいものづくりと物質・デバイス創成、また少子高齢化や自然災害対策などの大きな社会的課題に関心を持ち、積極的に自己学習できる人
3. 研究者や技術者として世界や地域の発展に貢献する意欲を持つ人

[生命科学科]

●求める人物像

生命科学科では、生命倫理を十分に理解しながら、既存の枠組みにとらわれない独創的で、総合的・先端的な生命科学を築き上げる開拓者精神に富む学生を歓迎します。生命科学科は、次のような人を求めます。

1. 生命科学を学ぶのに必要な基礎学力、特に化学、生物について十分な学力、または国語や英語など、十分な語学能力を有する人
2. 科学全般、特に生命科学に興味を持つことができる人
3. 勉学と研究の目標を達成できる強い意志を有している人

※高等学校等で修得すべき具体的な内容（入学者選抜試験の範囲とは異なります。）

数 学—「数学Ⅰ」、「数学Ⅱ」、「数学Ⅲ」、「数学A」、「数学B」における内容の理解と数学的思考力

理 科—「物理基礎・物理」、「化学基礎・化学」、「生物基礎・生物」における内容の理解と科学的思考力

国語・英語—国際社会で活躍する人材の素養としてのコミュニケーション能力、読解力、思考力

そ の 他—教養のある豊かな人間性をはぐくむために必要な、地理歴史、公民などの素養と社会事象に対する関心や探究心

《生命科学コース》

●求める人物像

1. 科学全般、特に生命科学に興味を持つ人
2. 生命科学を学ぶ上で必要な基礎学力を持ち、特に化学と生物の学力と国語や英語などの語学能力を高いレベルで持つ人
3. 勉学と研究に高い目標を持ち、それを達成しようとする強い意志を持つ人

※高等学校等で修得すべき具体的な内容（入学者選抜試験の範囲とは異なります。）

数 学—「数学Ⅰ」、「数学Ⅱ」、「数学Ⅲ」、「数学A」、「数学B」における内容の

理解と数学的思考力
 理科—「物理基礎・物理」,「化学基礎・化学」,「生物基礎・生物」における内容の理解と科学的思考力
 国語・英語—国際社会で活躍する人材の素養としてのコミュニケーション能力, 読解力, 思考力
 その他—教養のある豊かな人間性をはぐくむために必要な, 地理歴史, 公民などの素養と社会事象に対する関心や探究心

●入学者選抜の基本方針

《推薦入試Ⅱ》

高等学校等において優秀な成績を修め, 生命科学分野に強い関心を持ち, 人間性豊かで個性に輝く人を求めます。

そのため, 大学入試センター試験で「知識・教養」,「思考力・判断力」を評価します。個別学力検査等で, 面接を行い「関心・意欲・態度」,「表現力」,「知識・教養」,「思考力・判断力」,「協働性」を評価します。なお, 提出書類を面接の参考資料とします。

●入学者選抜方法における重点評価項目（入学者選抜方法と求める人物像の関係性）

入学者選抜方法	該当選抜区分	関心・意欲・態度	表現力	知識教養	思考力判断力	協働性
センター試験	推薦入試Ⅱ			○	○	
面接	推薦入試Ⅱ	○	○	○	○	○
調査書	推薦入試Ⅱ	○		○		○
推薦書	推薦入試Ⅱ	○				○
志願理由書	推薦入試Ⅱ	○	○			○
課外活動報告書	推薦入試Ⅱ					○

[物質科学科]

●求める人物像

物質科学科では, 原子・分子レベルからの物質設計ならびに製造技術を理解し, 新機能性材料や新化学プロセス技術の創製に関する研究と開発ができる人材を養成することを使命と捉え, 次のような人を入学者として求めます。

1. 物理や化学が好きで, 探究心が旺盛な人
2. 化学的現象や解明, 化学を活かしたものづくりに興味がある人
3. 金属, 半導体, セラミックスを利用した先端機能材料の開発に興味のある人

※高等学校等で修得すべき具体的な内容（入学者選抜試験の範囲とは異なります。）

数学—「数学Ⅰ」,「数学Ⅱ」,「数学Ⅲ」,「数学A」,「数学B」における内容の理解と数学的思考力
 理科—「物理基礎・物理」,「化学基礎・化学」,「生物基礎・生物」における内容の理解と科学的思考力
 国語・英語—国際社会で活躍する人材の素養としてのコミュニケーション能力, 読解力, 思考力, 論理的な構成能力

そ の 他—教養のある豊かな人間性をはぐくむために必要な、地理歴史、公民などの素養と社会事象に対する関心や探究心

《応用化学コース》

●求める人物像

1. 化学が好きで、探究心が旺盛な人
2. 化学的現象の解明や自然と調和した未来物質の開発に興味のある人
3. 国際的に活躍する化学技術者・研究者を目指す強い意欲のある人

※高等学校等で修得すべき具体的な内容（入学者選抜試験の範囲とは異なります。）

数 学—「数学Ⅰ」、「数学Ⅱ」、「数学Ⅲ」、「数学A」、「数学B」における内容の理解と数学的思考力

理 科—「物理基礎・物理」、「化学基礎・化学」、「生物基礎・生物」における内容の理解と科学的思考力

国語・英語—国際社会で活躍する人材の素養としてのコミュニケーション能力、読解力、思考力、論理的な構成能力

そ の 他—教養のある豊かな人間性をはぐくむために必要な、地理歴史、公民などの素養と社会事象に対する関心や探究心

●入学者選抜の基本方針

《推薦入試Ⅱ》

高等学校等において優秀な成績を修め、応用化学に強い関心を持ち、人間性豊かで個性に輝く人を求めます。

そのため、大学入試センター試験で「知識・教養」、「思考力・判断力」を評価します。個別学力検査等で、面接を行い「関心・意欲・態度」、「表現力」、「知識・教養」、「思考力・判断力」、「協働性」を評価します。なお、提出書類を面接の参考資料とします。

●入学者選抜方法における重点評価項目（入学者選抜方法と求める人物像の関係性）

入学者選抜方法	該当選抜区分	関心・意欲・態度	表現力	知識・教養	思考力・判断力	協働性
センター試験	推薦入試Ⅱ			○	○	
面接	推薦入試Ⅱ	○	○	○	○	○
調査書	推薦入試Ⅱ	○		○		○
推薦書	推薦入試Ⅱ	○				○
志願理由書	推薦入試Ⅱ	○	○			○
課外活動報告書	推薦入試Ⅱ					○

《材料理工学コース》

●求める人物像

1. 物理や化学が好きで、探求心が旺盛な人
2. 金属、半導体、セラミックスを利用した、機械・構造材料、磁性材料、電子・光学材料、センサー材料、環境・新エネルギー材料に興味がある人
3. 発展する科学技術の基礎となる様々な材料の研究と開発を行う技術者や研究者を目指す人

※高等学校等で修得すべき具体的な内容（入学者選抜試験の範囲とは異なります。）

- 数 学—「数学Ⅰ」、「数学Ⅱ」、「数学Ⅲ」、「数学A」、「数学B」における内容の理解と数学的思考力
- 理 科—「物理基礎・物理」、「化学基礎・化学」、「生物基礎・生物」における内容の理解と科学的思考力
- 国語・英語—国際社会で活躍する人材の素養としてのコミュニケーション能力、読解力、思考力
- そ の 他—教養のある豊かな人間性をはぐくむために必要な、地理歴史、公民などの素養と社会事象に対する関心や探究心

●入学者選抜の基本方針

《推薦入試Ⅱ》

高等学校等において優秀な成績を修め、材料科学に強い関心を持ち、人間性豊かで個性に輝く人を求めます。

そのため、大学入試センター試験で「知識・教養」、「思考力・判断力」を評価します。個別学力検査等で、面接を行い「関心・意欲・態度」、「表現力」、「知識・教養」、「思考力・判断力」、「協働性」を評価します。なお、提出書類を面接の参考資料とします。

●入学者選抜方法における重点評価項目（入学者選抜方法と求める人物像の関係性）

入学者選抜方法	該当選抜区分	関心・意欲・態度	表現力	知識教養	思考力判断力	協働性
センター試験	推薦入試Ⅱ			○	○	
面接	推薦入試Ⅱ	○	○	○	○	○
調査書	推薦入試Ⅱ	○		○		○
推薦書	推薦入試Ⅱ	○				○
志願理由書	推薦入試Ⅱ	○	○			○
課外活動報告書	推薦入試Ⅱ					○

[数理・電気電子情報学科]

●求める人物像

数理・電気電子情報学科では、数理科学、情報工学、電気電子工学に関する最先端の知識や技術を身に付け、また、複雑化する社会の到来に向けて、自ら学び、考えて、行動して、地域社会に貢献する技術者や研究者の育成を目指します。選考においては以下の点を重視します。

1. 数学や物理の持つ純粋科学の美しさと不思議さに惹かれ、物事や自然の原理や仕組みについて深く知りたいと思う強い気持ちがあり、粘り強く考えることが出来る人
2. 再生可能エネルギー、産業機器や家電に用いられる光・電子デバイス、情報通信技術や制御システムなどに興味があり、最先端の技術者や研究者を目指す意欲のある人
3. ヒトとコンピュータとの調和に配慮した高度な情報通信技術を学び、医療、福祉、環境、防災などの地域社会の課題解決や新たな価値創造に取り組みたい人

※高等学校等で修得すべき具体的な内容（入学者選抜試験の範囲とは異なります。）

- 数 学—「数学Ⅰ」、「数学Ⅱ」、「数学Ⅲ」、「数学A」、「数学B」における内容の理解と数学的思考力
- 理 科—「物理基礎・物理」、「化学基礎・化学」、「生物基礎・生物」における内容の理解と科学的思考力
- 国語・英語—国際社会で活躍する人材の素養としてのコミュニケーション能力、読解力、思考力
- そ の 他—教養のある豊かな人間性をはぐくむために必要な、地理歴史、公民などの素養と社会事象に対する関心や探究心

《数理科学コース》

●求める人物像

1. 数学、物理学、計算機科学に興味を持ち深く学んでみたい人
2. 論理的かつ客観的な視点で粘り強く考えることが好きな人
3. 自然の原理や仕組みについて考えたり話したりすることを楽しく感じる人

※高等学校等で修得すべき具体的な内容（入学者選抜試験の範囲とは異なります。）

- 数 学—「数学Ⅰ」、「数学Ⅱ」、「数学Ⅲ」、「数学A」、「数学B」における内容の理解と数学的思考力
- 理 科—「物理基礎・物理」、「化学基礎・化学」、「生物基礎・生物」における内容の理解と科学的思考力
- 国語・英語—国際社会で活躍する人材の素養としてのコミュニケーション能力、読解力、思考力
- そ の 他—教養のある豊かな人間性をはぐくむために必要な、地理歴史、公民などの素養と社会事象に対する関心や探究心

●入学者選抜の基本方針

《推薦入試Ⅱ》

高等学校において優秀な成績を修め、数学、物理学、計算機科学に強い関心を持ち、人間性豊かで個性に輝く人を求めます。

そのため、大学入試センター試験で「知識・教養」、「思考力・判断力」を評価します。個別学力検査等で、面接を行い「関心・意欲・態度」、「表現力」、「知識・教養」、「思考

力・判断力」,「協働性」を評価します。なお,提出書類を面接の参考資料とします。

●入学者選抜方法における重点評価項目(入学者選抜方法と求める人物像の関係性)

入学者選抜方法	該当選抜区分	関心・意欲・態度	表現力	知識・教養	思考力・判断力	協働性
センター試験	推薦入試Ⅱ			○	○	
面接	推薦入試Ⅱ	○	○	○	○	○
調査書	推薦入試Ⅱ	○		○		○
推薦書	推薦入試Ⅱ	○				○
志願理由書	推薦入試Ⅱ	○	○			○
課外活動報告書	推薦入試Ⅱ					○

《電気電子工学コース》

●求める人物像

1. 数学や物理が好きで,ものやシステムの原理や仕組みを論理的に思考・理解しようとする人
2. 環境に調和した電気エネルギー,創意や工夫にあふれる光・電子デバイス,人にやさしく知的な情報通信や医療機器,社会の基盤を支えるコンピュータや制御システムなどに興味のある人
3. 創造性を発揮して国際的に活躍する最先端のエレクトロニクス技術者や研究者を目指す意欲のある人

※高等学校等で修得すべき具体的な内容(入学者選抜試験の範囲とは異なります。)

- 数 学—「数学Ⅰ」,「数学Ⅱ」,「数学Ⅲ」,「数学A」,「数学B」における内容の理解と数学的思考力
- 理 科—「物理基礎・物理」,「化学基礎・化学」,「生物基礎・生物」における内容の理解と科学的思考力
- 国語・英語—国際社会で活躍する人材の素養としてのコミュニケーション能力,読解力,思考力
- そ の 他—教養のある豊かな人間性をはぐくむために必要な,地理歴史,公民などの素養と社会事象に対する関心や探究心

●入学者選抜の基本方針

《推薦入試Ⅱ》

高等学校等において優秀な成績を修め,電気電子工学に強い関心を持ち,人間性豊かで個性に輝く人を求めます。

そのため,大学入試センター試験で「知識・教養」,「思考力・判断力」を評価します。個別学力検査等で,面接を行い「関心・意欲・態度」,「表現力」,「知識・教養」,「思考力・判断力」,「協働性」を評価します。なお,提出書類を面接の参考資料とします。

●入学者選抜方法における重点評価項目（入学者選抜方法と求める人物像の関係性）

入学者選抜方法	該当選抜区分	関心・意欲・態度	表現力	知識・教養	思考力・判断力	協働性
センター試験	推薦入試Ⅱ			○	○	
面接	推薦入試Ⅱ	○	○	○	○	○
調査書	推薦入試Ⅱ	○		○		○
推薦書	推薦入試Ⅱ	○				○
志願理由書	推薦入試Ⅱ	○	○			○
課外活動報告書	推薦入試Ⅱ					○

《人間情報工学コース》

●求める人物像

1. 感性が豊かで、論理的思考に習熟し、対象を広く、また深く理解しようとする人
2. ヒトとコンピュータとの調和に配慮した高度な情報通信技術（ICT）に興味がある人
3. 日進月歩の高度情報化社会に貢献する技術者や研究者を目指す、意欲のある人

※高等学校等で修得すべき具体的な内容（入学者選抜試験の範囲とは異なります。）

- 数 学—「数学Ⅰ」、「数学Ⅱ」、「数学Ⅲ」、「数学A」、「数学B」における内容の理解と数学的思考力
- 理 科—「物理基礎・物理」、「化学基礎・化学」、「生物基礎・生物」における内容の理解と科学的思考力
- 国語・英語—国際社会で活躍する人材の素養としてのコミュニケーション能力、表現力、読解力、思考力
- そ の 他—教養のある豊かな人間性をはぐくむために必要な、地理歴史、公民などの素養と社会事象に対する関心や探究心

●入学者選抜の基本方針

《推薦入試Ⅱ》

高等学校等において優秀な成績を修め、情報通信技術と数理系の学問に強い関心を持ち、人間性豊かで個性に輝く人を求めます。

そのため、大学入試センター試験で「知識・教養」、「思考力・判断力」を評価します。個別学力検査等で、面接を行い「関心・意欲・態度」、「表現力」、「知識・教養」、「思考力・判断力」、「協働性」を評価します。なお、提出書類を面接の参考資料とします。

●入学者選抜方法における重点評価項目（入学者選抜方法と求める人物像の関係性）

入学者選抜方法	該当選抜区分	関心・意欲・態度	表現力	知識教養	思考力判断力	協働性
センター試験	推薦入試Ⅱ			○	○	
面接	推薦入試Ⅱ	○	○	○	○	○
調査書	推薦入試Ⅱ	○		○		○
推薦書	推薦入試Ⅱ	○				○
志願理由書	推薦入試Ⅱ	○	○			○
課外活動報告書	推薦入試Ⅱ					○

[システムデザイン工学科]

●求める人物像

システムデザイン工学科では、環境、福祉、医療、都市、輸送、交通、防災など、社会の様々なシステムの問題に対して、基盤となる工学や技術を適切に応用し、自分で考えて問題解決できる人材の育成を目指し、次のような人を求めます。

1. 工学の基礎から実践までを学び、社会の要請に応え、地域社会へ積極的に貢献できる技術者
2. 持続的社会形成の必要性を理解し、創造的な技術開発に挑戦したい人
3. 様々な要素が複雑に絡みあう問題に対して、多面的に捉え柔軟な解決方法を提案できる人

※高等学校等で修得すべき具体的な内容（入学者選抜試験の範囲とは異なります。）

数 学—「数学Ⅰ」、「数学Ⅱ」、「数学Ⅲ」、「数学A」、「数学B」における内容の理解と数学的思考力

理 科—「物理基礎・物理」、「化学基礎・化学」、「生物基礎・生物」における内容の理解と科学的思考力

国語・英語—国際社会で活躍する人材の素養としてのコミュニケーション能力、読解力、思考力

そ の 他—教養のある豊かな人間性をはぐくむために必要な、地理歴史、公民などの素養と社会事象に対する関心や探究心

《機械工学コース》

●求める人物像

1. 数学や物理が好きで学習意欲があり、工学の基礎学力を高めたい人
2. 設計、力学、制御を学び、ものづくりによりエンジニアの素養を得たい人
3. 輸送機械の電動化、医療福祉工学、環境にやさしい機械工学の3分野のいずれかに興味を持ち、深く学びたい人

※高等学校等で修得すべき具体的な内容（入学者選抜試験の範囲とは異なります。）

- 数 学—「数学Ⅰ」,「数学Ⅱ」,「数学Ⅲ」,「数学A」,「数学B」における内容の理解と数学的思考力
- 理 科—「物理基礎・物理」,「化学基礎・化学」,「生物基礎・生物」における内容の理解と科学的思考力
- 国語・英語—国際社会で活躍する人材の素養としてのコミュニケーション能力, 読解力, 思考力
- そ の 他—教養のある豊かな人間性をはぐくむために必要な, 地理歴史, 公民などの素養と社会事象に対する関心や探究心

●入学者選抜の基本方針

《推薦入試Ⅱ》

高等学校等において学業・課外活動に優れた成績を修め, 機械工学に強い関心を持ち, 人間性豊かで個性に輝く人を求めます。

そのため, 大学入試センター試験で「知識・教養」,「思考力・判断力」を評価します。個別学力検査等で, 面接を行い「関心・意欲・態度」,「表現力」,「知識・教養」,「思考力・判断力」,「協働性」を評価します。なお, 提出書類を面接の参考資料とします。

入学者選抜方法	該当選抜区分	関心・意欲・態度	表現力	知識・教養	思考力・判断力	協働性
センター試験	推薦入試Ⅱ			○	○	
面接	推薦入試Ⅱ	○	○	○	○	○
調査書	推薦入試Ⅱ	○		○		○
推薦書	推薦入試Ⅱ	○				○
志願理由書	推薦入試Ⅱ	○	○			○
課外活動報告書	推薦入試Ⅱ					○

《土木環境工学コース》

●求める人物像

1. 数学や物理などの自然科学の知識を社会基盤の整備と発展に活かしたい人
2. すべての人が安心して生活できる社会基盤をつくるには, どうすればよいのかに興味がある人
3. 自然環境と人間環境が調和した社会基盤の整備と発展に役立ちたい人

※高等学校等で修得すべき具体的な内容（入学者選抜試験の範囲とは異なります。）

- 数 学—「数学Ⅰ」,「数学Ⅱ」,「数学Ⅲ」,「数学A」,「数学B」における内容の理解と数学的思考力
- 理 科—「物理基礎・物理」,「化学基礎・化学」,「生物基礎・生物」における内容の理解と科学的思考力

国語・英語—国際社会で活躍する人材の素養としてのコミュニケーション能力，読解，思考力
 そ の 他—教養のある豊かな人間性をはぐくむために必要な，地理歴史，公民などの素養と社会事象に対する関心や探究心

●入学者選抜の基本方針

《推薦入試Ⅱ》

高等学校等において優秀な成績を修め，自然環境と人間環境が調和した社会基盤の整備と発展に強い関心を持ち，人間性豊かで個性に輝く人を求めます。

そのため，大学入試センター試験で「知識・教養」，「思考力・判断力」を評価します。個別学力検査等で，面接を行い「関心・意欲・態度」，「表現力」，「知識・教養」，「思考力・判断力」，「協働性」を評価します。なお，提出書類を面接の参考資料とします。

●入学者選抜方法における重点評価項目（入学者選抜方法と求める人物像の関係性）

入学者選抜方法	該当選抜区分	関心・意欲・態度	表現力	知識教養	思考力判断力	協働性
センター試験	推薦入試Ⅱ			○	○	
面接	推薦入試Ⅱ	○	○	○	○	○
調査書	推薦入試Ⅱ	○		○		○
推薦書	推薦入試Ⅱ	○				○
志願理由書	推薦入試Ⅱ	○	○			○
課外活動報告書	推薦入試Ⅱ					○

推薦入試 I

(大学入試センター試験を課さない推薦入試)

1 募集人員（推薦入試Ⅰ）

学 部	課 程・学 科	コ ー ス	募集人員
教育文化学部	学 校 教 育 課 程	教育実践コース	4 人
	地 域 文 化 学 科		25 人 うち地域連携・国際 交流枠 5 人程度
合 計			29 人

2 推薦の要件

教育文化学部

課程・学科等		推 薦 の 要 件
学 校 教 育 課 程	教育実践コース	<p>次の要件すべてに該当する者</p> <p>(1) 次のいずれかに該当する者</p> <p>① 高等学校（特別支援学校の高等部を含む。）もしくは中等教育学校を卒業した者および令和2年3月卒業見込みの者</p> <p>② 文部科学大臣が高等学校の課程と同等または相当する課程を有するものとして認定または指定した在外教育施設の当該課程を修了した者および令和2年3月修了見込みの者</p> <p>(2) 教員を志望し、学業成績・人物ともに優れ、出身学校長（高等学校長等）が責任を持って推薦でき、合格した場合、入学を確約できる者</p> <p>(3) 調査書の保健体育の評定平均値が4.0以上の者</p> <p>(4) 本学他学部および他の国公立大学の推薦入試に出願していない者</p>
	地 域 文 化 学 科	<p>次の要件すべてに該当する者</p> <p>(1) 次のいずれかに該当する者</p> <p>① 高等学校（特別支援学校の高等部を含む。）もしくは中等教育学校を卒業した者および令和2年3月卒業見込みの者</p> <p>② 文部科学大臣が高等学校の課程と同等または相当する課程を有するものとして認定または指定した在外教育施設の当該課程を修了した者および令和2年3月修了見込みの者</p> <p>(2) 学業成績および人物ともに優れ、出身学校長（高等学校長等）が責任を持って推薦でき、合格した場合、入学を確約できる者</p> <p>(3) 調査書の学習成績概評がB段階以上（全体の評定平均値が3.5以上）で、なおかつ、①国語、②地理歴史または公民、③外国語の3教科の評定平均値の平均が4.0以上の者</p> <p>外国語の評定平均値について、各高等学校等において外国語教科を第1外国語・第2外国語のように2以上に区分している場合、調査書に記載された第1外国語（英語）の評定平均値、または第1外国語・第2外国語を合わせた評定平均値のいずれか高い方を対象とする。</p> <p>(4) 本学他学部および他の国公立大学の推薦入試に出願していない者</p> <p>(5) 地域連携・国際交流枠に志願する場合、上記の(1)～(4)の条件に加え、地域連携活動あるいは国際交流活動に関して、継続的な活動実績を有し、活動実績を客観的に確認できる根拠資料を提出でき、大学入学後も同様の活動を継続的に行う意思を持っている者</p> <p>注) 上記の要件の他、9～10ページに記載されている「入学者選抜の基本方針」も参照してください。</p>

3 選抜方法

教育文化学部

(1) 実施教科等および採点・評価の観点、基準等

課程・学科	コース・枠	実施教科等		受験を要する教科等
		教科等	採点・評価の観点、基準等	
学校教育課程	教育実践コース	小論文	英語の和訳を含む。英文をもとにした設問に論述させ、理解力、論理的思考能力、文章表現能力をみます。	小論文、実技検査(体育)および面接(口頭試問を含む)
		実技検査	運動能力、技術力を中心に採点、評価します。(下記(2)参照)	
		面接	教員になる意欲、スポーツや保健体育について学ぶ意欲を評価します。口頭試問は国語、社会、保健体育の教養レベルの基礎学力について行い、評価します。	
地域文化学科	一般枠	小論文	社会や文化に関する課題文に提起されている問題点を的確に読み取り、高等学校等までで学んだ基礎知識に基づいてその問題点を考察し、自分の見解を論理的かつ説得力を持って文章化する能力をみます。	小論文および面接(口頭試問を含む)
		面接	地域文化学科における人材養成の目的・目標をよく理解したうえで、志望理由および入学後の学習の目標等を明確かつ簡潔に表現できる能力をみます。同時に関連諸分野への関心の高さをみます。	
	地域連携・国際交流枠	面接	地域文化学科における人材養成の目的・目標をよく理解したうえで、志望理由および入学後の学習の目標等を明確かつ簡潔に表現できる能力をみます。さらに、地域連携・国際交流活動内容記載書に記載された活動とその意義について、明確かつ分かりやすく説明できる能力と入学後の地域連携・国際交流活動への熱意をみます。	面接(口頭試問・3分程度のプレゼンテーションを含む)

(2) 実技検査の内容

教育文化学部	学校教育課程	教育実践コース
<p>【体育】 次の運動種目①から⑦のうちから1種目を選択して受験してください。 運動種目 ①陸上競技(競走、跳躍、または投てき) ②バレーボール ③サッカー ④ハンドボール ⑤卓球 ⑥柔道 ⑦ダンス</p> <p>注1) ①～⑤および⑦の運動種目を選択する者は、体育館用シューズを持参してください。 ⑤卓球を選択する者は、ラケットを持参してください。 ⑥柔道を選択する者は、柔道衣を持参してください。</p> <p>注2) 出願書類と同時に提出するもの：スポーツ活動の調書(本学指定の様式) 調書には、調書に記載した各種大会出場等における成績(順位、タイムなど)などを証明する資料を添付すること。(記載事項がない場合も調書は必ず提出してください。) *証明する資料とは、大会プログラム、メンバー表、賞状、認定証、ランキング表、新聞や専門雑誌の切り抜きなどです。(いずれもコピーにて可。資料は可能な限りA4判としてください。)</p>		

(3) 合格者の決定方法

課程・学科等	合格者の決定方法
学校教育課程 教育実践コース	大学入試センター試験および個別学力検査を免除し、調査書、推薦書、志願理由書、実技検査調書、小論文、実技検査(体育)および面接(口頭試問を含む)の結果を総合して判定します。
地域文化学科 一般枠	大学入試センター試験および個別学力検査を免除し、調査書、推薦書、志願理由書、小論文および面接(口頭試問を含む)の結果を総合して判定します。
地域文化学科 地域連携・国際交流枠	大学入試センター試験および個別学力検査を免除し、調査書、推薦書、志願理由書、地域連携・国際交流活動内容記載書および面接(口頭試問・3分程度のプレゼンテーションを含む)の結果を総合して判定します。

4 試験の日程

学部	課程・学科	コース・枠	試験日	事項	時間
教育文化学部	学校教育課程	教育実践コース	令和元年11月23日(土)	集合時刻	8:30
				小論文	9:00～10:00
				実技検査および面接	10:30～17:00
	地域文化学科	一般枠		集合時刻	8:30
				小論文	9:00～10:00
				面接	10:30～17:00
地域連携・国際交流枠	集合時刻	8:30			
	面接	9:00～17:00			

注) 面接の終了時刻は、受験者数により変わる場合があります。

5 試験場

学部	試験場
教育文化学部	秋田大学教育文化学部試験場 (手形キャンパス: 秋田市手形学園町1番1号)

6 受験上の注意事項

- ① 試験当日は、「令和2年度秋田大学受験票」を忘れずに必ず持参してください。なお、試験室棟に入る際には、本学受験票を係員に提示してください。
- ② 試験当日は、受験者は8時10分から試験室棟へ入ることができます。
- ③ 試験開始時刻に遅刻した場合は、試験開始時刻後10分以内の遅刻に限り、受験を認めます。
- ④ 試験時間中の答案提出は認めません。
- ⑤ 小論文の試験室では、受験票、黒鉛筆、鉛筆キャップ、シャープペンシル、消しゴム、鉛筆削り(電動式・大型のもの・ナイフ類を除く。)、定規、時計(計時機能だけと判別が容易なもので、秒針音のするもの・大型のもの・アラームの鳴るものを除く。)、眼鏡、ティッシュペーパー(袋または箱から中身だけを取り出したもの)以外のものは、机の上に置くことはできません。
- ⑥ 携帯電話等の電子機器類を持参した場合は、試験室棟に入る前に必ずアラームの設定を解除し電源を切っておいてください。試験時間中、かばん等にしまわず、身につけていたり手に持っていた場合は、不正行為となる場合があります。
- ⑦ 不正行為を行った場合は以後の受験は認められず、個別学力検査等の受験は失格となります。
- ⑧ 試験場・試験室において、他の受験者の迷惑になる行為は行わないでください。
- ⑨ 試験場の下見は、試験前日の13時から17時までの間に行ってください。なお、下見は試験室棟入口までとし、試験室棟には入れません。
- ⑩ 試験前日および試験当日は、受験者および付添者の車両による入構を禁止します。なお、試験当日、試験場には、受験者および付添者の控室を設けています。
- ⑪ 受験者(特に遠隔地からの者)は、**積雪等による交通機関の乱れを考慮し**、前日までに秋田市内に到着する等ゆとりをもった日程を組むほか、衣類・履物等にも留意してください。
- ⑫ 地域文化学科 地域連携・国際交流枠の面接での3分程度のプレゼンテーションでは、資料の使用も可としますがパソコン等の機材は大学側では準備しません。

7 出願手続

(1) 出願に必要な書類等

- 全員が提出するもの

書 類 等	摘 要	
入 学 志 願 票	志 望 先	志望する課程・学科・コースを記入してください。 地域文化学科志望者は、一般か地域連携・国際交流のいずれかを○で囲んでください。
	氏 名	漢字氏名およびふりがなを記入してください。
	生年月日、性別	生年月日を記入し、男・女のいずれかを○で囲んでください。
	出 願 資 格	出身学校所在地（都道府県名）、出身学校・学科名、卒業（卒業見込み）年月を記入し、該当箇所を○で囲んでください。
	連 絡 先	本人の郵便番号、住所、電話番号および携帯電話番号を記入してください。 なお、電話が呼出しとなる場合は、その氏名等を記入してください。
受 験 票 ・ 写 真 票	本人の住所と異なる場合に、保護者の郵便番号、住所および電話番号を記入してください。	
受 験 票 ・ 写 真 票	所要事項を記入し、写真票に写真を貼ってください。写真は、縦4 cm、横3 cmで正面、上半身、無帽で出願前3か月以内に撮影したものとします。	
検 定 料 ・ 検 定 料 収 納 証 明 書 貼 付 台 紙	検定料は、 <u>17,000円</u> です。同封している「入学検定料支払方法のご案内」を参照のうえ、 令和元年10月18日(金)以降出願前までに払い込んでください。払込手数料が別途必要です。なお、期間外は払い込みできません。 払い込みの際に受領する「取扱説明書」または「取扱明細書兼領収書」の「収納証明書」部分を切り取り、「検定料収納証明書貼付台紙」にしっかりと貼ってください。 台紙には、氏名、志望先を記入してください。 出願手続完了後、既納の検定料は、いかなる理由があっても返還しません。ただし、検定料の振込後に出願しなかった場合は返還しますので、原則として令和元年11月7日(木)から令和元年11月13日(水)までの間に、 秋田大学経理・調達課出納担当（電話 018-889-2234） へ申し出てください。	
調 査 書	文部科学省所定の様式により在学（出身）学校長が作成し、厳封したもの。 なお、本学ではⒶ標示を求めておりませんのでⒶ標示であっても「A」として取り扱います。	
推 薦 書	本学所定の様式により在学（出身）学校長が作成し、厳封したもの（「推薦書記入上の注意」を確認のうえ、記入してください。） なお、様式は本学ホームページ (https://www.akita-u.ac.jp/) からダウンロードできます。	
志 願 理 由 書	本学所定の用紙に、志願者本人が記入してください。	
あ て 名 票	本学所定の用紙に、受験番号以外の所要事項を記入してください。	
受 験 票 送 付 用 封 筒	本学所定の封筒にあて先を明記し、 374円分の切手を必ず貼り付けてください。	

- 学校教育課程教育実践コース志望者全員が提出するもの

書 類 等	摘 要
実 技 検 査 調 書	本学所定の様式に、所要事項を記入してください。
実 技 検 査 関 係 資 料	スポーツ活動の調書に所要事項を記入し、記載内容を証明する資料と一括し、実技検査調書に添えて提出してください。詳細は、26ページ記載の「実技検査の内容」を参照してください。

- 地域文化学科地域連携・国際交流枠志望者全員が提出するもの

書 類 等	摘 要
地 域 連 携 ・ 国 際 交 流 活 動 内 容 記 載 書	本学所定の様式により、本人が作成したもの。ただし、記載内容証明者の欄は記載内容を証明する方の自筆であり、捺印してあること。記載については、「地域連携・国際交流活動内容記載書記入上の注意」を確認の上、記入してください。 なお、様式は本学ホームページ (https://www.akita-u.ac.jp/) からダウンロードできます。

(2) 出願方法

① 出願期間 令和元年 11月1日(金) から令和元年 11月6日(水) まで(必着)

- ・ 出願書類は一括し、本要項に添付の出願用封筒に入れて、原則として郵送により提出してください。郵送の場合は、必ず「速達簡易書留」として、郵送期間を十分に考慮してください。
- ・ 持参の場合は、入試課窓口で9時から17時まで受付します。ただし、土曜日・日曜日および祝日は受付を行いません。
- ・ 出願書類を在学(出身)学校においてとりまとめて提出する場合は、出願者ごとに「出願用封筒」に入れ、それらを別の封筒等に入れ、封筒の左側に「出願書類〇名分」と朱書きしてください。

② 出願書類の提出先

秋田大学入試課
〒010-8502 秋田市手形学園町1番1号

(3) 出願にあたっての注意事項

- ① 出願書類等に不備がある場合は、これを受理しません。
- ② 受理した出願書類等の返還および記載事項の変更は認めません。
- ③ 出願後、連絡先に変更があった場合は、書面により届け出てください。
- ④ **国公立大学の推薦入試(大学入試センター試験を課す場合、課さない場合を含めて)への出願は、一つの大学・学部に限られています。**したがって、本学の推薦入試に出願した場合は、他の国公立大学の推薦入試(大学入試センター試験を課す場合、課さない場合を含めて)へ出願することはできません。また、他の国公立大学の推薦入試(大学入試センター試験を課す場合、課さない場合を含めて)に不合格となった者が本学の推薦入試へ出願することもできません。
ただし、本学の教育文化学部学校教育課程教育実践コースの推薦入試Ⅰで不合格になった者は、同コースの推薦入試Ⅱに出願することができます。

(4) 受験票の送付について

本学では、提出された出願書類等を確認のうえ、受験票を送付します。令和元年 11月11日(月)までに受験票が届かない場合は、必ず本学入試課まで問い合わせてください。

8 合格者の発表

令和元年 12月9日(月) 13時(予定)

本学手形キャンパス内に合格者の受験番号を掲示するとともに、合格者には合格通知書を、在学(出身)学校長には合否通知書を郵送します。また、秋田大学ホームページ(<https://www.akita-u.ac.jp/>)に合格者の受験番号を掲載します。

なお、ホームページへの掲載は、情報サービスの一環として行っておりますので、必ず本学掲示板または合格通知書で確認してください。

注) 電話による問い合わせには一切応じません。

9 入学手続

入学手続期間 令和2年 2月18日(火)・19日(水)

入学手続の方法 53 ページに記載のとおり

推薦入試Ⅱ

(大学入試センター試験を課す推薦入試)

1 募集人員（推薦入試Ⅱ）

学 部	学科・課程・専攻・コース・枠		募集人員
国際資源学部	国際資源学科	資源政策コース	3人
		資源地球科学コース	5人
		資源開発環境コース	5人
	小 計		13人
教育文化学部	学校教育課程	教育実践コース	9人
		英語教育コース	2人
		理数教育コース	4人
		こども発達コース	6人
	小 計		21人
医学部	医 学 科	一 般 枠	20人
		地域枠	秋田県地域枠 全国地域枠
	保 健 学 科	看護学専攻	20人
		理学療法学専攻	6人
		作業療法学専攻	7人
	小 計		53人(※)
	理工学部	生命科学科	生命科学コース
物質科学科		応用化学コース	4人
		材料理工学コース	4人
数理・電気電子情報学科		数理科学コース	2人
		電気電子工学コース	7人
		人間情報工学コース	3人
システムデザイン工学科		機械工学コース	6人
		土木環境工学コース	9人
小 計		39人	
合 計		126人(※)	

※医学科地域枠の募集人員は決定次第ホームページでお知らせいたしますのでご確認ください。

2 推薦の要件

国際資源学部

学科・コース		推 薦 の 要 件
国際資源学科	資源政策コース	次の(1)から(3)の要件すべてに該当する者 (1) 次のいずれかに該当する者 ① 高等学校（特別支援学校の高等部を含む。）もしくは中等教育学校を令和2年3月卒業見込みの者（令和元年度の途中で卒業を認められる者を含む。） ② 文部科学大臣が高等学校の課程と同等または相当する課程を有するものとして認定または指定した在外教育施設の当該課程を令和2年3月修了見込みの者（令和元年度の途中で修了を認められる者を含む。） (2) (1)の学校における学業成績および人物ともに優れ、出身学校長（高等学校校長等）が責任を持って推薦でき、合格した場合、入学を確約できる者 (3) 本学他学部および他の国公立大学の推薦入試に出願していない者
	資源地球科学コース	
	資源開発環境コース	

教育文化学部

課程・コース	推薦の要件
教育実践コース	<p>次の(1)から(6)の要件すべてに該当する者</p> <p>(1) 次のいずれかに該当する者</p> <p>① 高等学校（特別支援学校の高等部を含む。）もしくは中等教育学校を卒業した者および令和2年3月卒業見込みの者</p> <p>② 文部科学大臣が高等学校の課程と同等または相当する課程を有するものとして認定または指定した在外教育施設の当該課程を修了した者および令和2年3月修了見込みの者</p> <p>③ 文部科学大臣の指定を受けた専修学校の高等課程を令和2年3月修了見込みの者（③の要件は実技検査で受験する者に限る。）</p> <p>(2) 教員を志望し、人物等について出身学校長（高等学校長等）が責任を持って推薦でき、合格した場合、入学を確約できる者</p> <p>(3) 小論文で受験する者は調査書の学習成績概評がB段階以上（全体の評定平均値が3.5以上）で、なおかつ、国語、地理歴史、公民、または家庭いずれか1教科の評定平均値が4.0以上の者</p> <p>(4) 音楽の実技検査で受験する者は技能・表現力が優れている者</p> <p>(5) 美術の実技検査で受験する者は造形表現力が優れている者</p> <p>(6) 本学他学部および他の国公立大学の推薦入試に出願していない者</p>
学校教育課程 英語教育コース	<p>次の(1)から(4)の要件すべてに該当する者</p> <p>(1) 次のいずれかに該当する者</p> <p>① 高等学校（特別支援学校の高等部を含む。）もしくは中等教育学校を卒業した者および令和2年3月卒業見込みの者</p> <p>② 文部科学大臣が高等学校の課程と同等または相当する課程を有するものとして認定または指定した在外教育施設の当該課程を修了した者および令和2年3月修了見込みの者</p> <p>(2) 学業成績および人物ともに優れ、出身学校長（高等学校長等）が責任を持って推薦でき、合格した場合、入学を確約できる者</p> <p>(3) 調査書の学習成績概評がB段階以上（全体の評定平均値が3.5以上）で、なおかつ、①国語、②地理歴史または公民、③外国語の3教科の評定平均値の平均が4.0以上の者のうち、本コースへの入学に固い意志を持ち、特に英語教育の分野で将来にわたり活躍を期待する十分な資質を有すると思われる者</p> <p>外国語の評定平均値について、各高等学校等において外国語教科を第1外国語・第2外国語のように2以上に区分している場合、調査書に記載された第1外国語（英語）の評定平均値、または第1外国語・第2外国語を合わせた評定平均値のいずれか高い方を対象とする。</p> <p>(4) 本学他学部および他の国公立大学の推薦入試に出願していない者</p>
理数教育コース	<p>次の(1)から(4)の要件すべてに該当する者</p> <p>(1) 次のいずれかに該当する者</p> <p>① 高等学校（特別支援学校の高等部を含む。）もしくは中等教育学校を卒業した者および令和2年3月卒業見込みの者</p> <p>② 文部科学大臣が高等学校の課程と同等または相当する課程を有するものとして認定または指定した在外教育施設の当該課程を修了した者および令和2年3月修了見込みの者</p> <p>(2) 教員を強く志望し、人物等について出身学校長（高等学校長等）が責任を持って推薦でき、合格した場合、入学を確約できる者</p> <p>(3) 調査書の学習成績概評がB段階以上（全体の評定平均値が3.5以上）で、なおかつ、数学または理科の評定平均値が4.0以上の者</p> <p>(4) 本学他学部および他の国公立大学の推薦入試に出願していない者</p>
こども発達コース	<p>次の(1)から(4)の要件すべてに該当する者</p> <p>(1) 次のいずれかに該当する者</p> <p>① 高等学校（特別支援学校の高等部を含む。）もしくは中等教育学校を卒業した者および令和2年3月卒業見込みの者</p> <p>② 文部科学大臣が高等学校の課程と同等または相当する課程を有するものとして認定または指定した在外教育施設の当該課程を修了した者および令和2年3月修了見込みの者</p> <p>(2) 人物等について、出身学校長（高等学校長等）が責任を持って推薦でき、合格した場合、入学を確約できる者</p> <p>(3) (1)の学校における調査書の学習成績概評がB段階以上（全体の評定平均値が3.5以上）の者</p> <p>(4) 本学他学部および他の国公立大学の推薦入試に出願していない者</p>

医学部

学科・枠		推薦の要件
医 学 科	一般 枠	<p>次の(1)から(3)の要件すべてに該当する者</p> <p>(1) 次のいずれかに該当する者</p> <p>① 高等学校（特別支援学校の高等部を含む。）もしくは中等教育学校を令和2年3月卒業見込みの者（令和元年度の途中で卒業を認められた者を含む。）</p> <p>② 文部科学大臣が高等学校の課程と同等または相当する課程を有するものとして認定または指定した在外教育施設の当該課程を令和2年3月修了見込みの者（令和元年度の途中で修了を認められた者を含む。）</p> <p>(2) 調査書の学習成績概評がA段階（全体の評定平均値が4.3以上）に属する者のうち、本学科への入学に固い意志を持ち、特に医学の分野で将来にわたり活躍を期待する十分な資質を有すると思われる者で、出身学校長（高等学校長等）が責任を持って推薦でき、合格した場合、入学を確約できる者</p> <p>(3) 本学他学部および他の国公立大学の推薦入試に出願していない者</p>
医 学 科	地 域 枠	<p>次の(1)から(5)の各号の要件すべてに該当する者</p> <p>(1) 秋田県内の高等学校（特別支援学校の高等部を含む。）もしくは中等教育学校を平成31年3月以降に卒業した者および令和2年3月卒業見込みの者</p> <p>(2) 秋田県の修学資金の貸与を受け、かつ卒業後一定期間、秋田県内の公的医療機関等で医療に従事する強い意志を有する者</p> <p>(3) 学業成績および人物ともに優れ、出身学校長（高等学校長等）が責任を持って推薦でき、合格した場合、入学を確約できる者</p> <p>(4) 調査書の学習成績概評がA段階（全体の評定平均値が4.3以上）の者</p> <p>(5) 本学他学部および他の国公立大学の推薦入試に出願していない者</p>
	* 以下 必読	<p>次の(1)から(5)の各号の要件すべてに該当する者</p> <p>(1) 次のいずれかに該当する者</p> <p>① 秋田県外の高等学校（特別支援学校の高等部を含む。）もしくは中等教育学校を平成31年3月以降に卒業した者および令和2年3月卒業見込みの者</p> <p>② 文部科学大臣が高等学校の課程と同等または相当する課程を有するものとして認定または指定した在外教育施設の当該課程を平成30年4月以降に修了した者および令和2年3月修了見込みの者</p> <p>(2) 秋田県の修学資金の貸与を受け、かつ卒業後一定期間、秋田県内の公的医療機関等で医療に従事する強い意志を有する者</p> <p>(3) 学業成績および人物ともに優れ、出身学校長（高等学校長等）が責任を持って推薦でき、合格した場合、入学を確約できる者</p> <p>(4) 調査書の学習成績概評がA段階（全体の評定平均値が4.3以上）の者</p> <p>(5) 本学他学部および他の国公立大学の推薦入試に出願していない者</p>

<p>*【医学部医学科：秋田県地域枠および全国地域枠に関する事項】 地域枠の出願にあたっては「秋田県地域枠医師等キャリア形成プログラム」を必読し、秋田県医学生修学資金制度を理解のうえ、出願してください。</p> <p>秋田県医学生修学資金について URL http://common3.pref.akita.lg.jp/ishikakuho/ あきたの医師・医療情報総合サイト「秋田の医療情報、みてたんせ」 >秋田県の医師支援策>修学資金・研修資金>秋田県地域枠医師等キャリア形成プログラム 問合せ先：秋田県健康福祉部医務薬事課医療人材対策室 電話番号 018-860-1410</p>	<p>秋田の医療情報 みてたんせ QRコード</p> 
--	--

学科・専攻		推薦の要件
保 健 学 科	看護学専攻 理学療法学専攻 作業療法学専攻	<p>次の(1)から(3)の要件すべてに該当する者</p> <p>(1) 次のいずれかに該当する者</p> <p>① 高等学校（特別支援学校の高等部を含む。）もしくは中等教育学校を令和2年3月卒業見込みの者（令和元年度の途中で卒業を認められる者を含む。）</p> <p>② 文部科学大臣が高等学校の課程と同等または相当する課程を有するものとして認定または指定した在外教育施設の当該課程を令和2年3月修了見込みの者（令和元年度の途中で修了を認められる者を含む。）</p> <p>(2) 学力、人物ともに優秀な者で、出身学校長（高等学校長等）が責任を持って推薦でき、合格した場合、入学を確約できる者</p> <p>(3) 本学他学部および他の国公立大学の推薦入試に出願していない者</p>

理工学部

学科・コース		推薦の要件
生命科学科	生命科学コース	次の(1)から(3)の要件すべてに該当する者 (1) 次のいずれかに該当する者 ① 高等学校（特別支援学校の高等部を含む。）もしくは中等教育学校を卒業した者および令和2年3月卒業見込みの者 ② 文部科学大臣が高等学校の課程と同等または相当する課程を有するものとして認定または指定した在外教育施設の当該課程を修了した者および令和2年3月修了見込みの者 (2) 学業成績および人物ともに優れ、出身学校長（高等学校長等）が責任を持って推薦でき、合格した場合、入学を確約できる者 (3) 本学他学部および他の国公立大学の推薦入試に出願していない者
物質科学科	応用化学コース	
	材料理工学コース	
数理・電気電子情報学	数理科学コース	
	電気電子工学コース	
システムデザイン工学科	人間情報工学コース	
	機械工学コース	
	土木環境工学コース	

3 選抜方法等

(1) 選抜方法および採点・評価の観点、基準等

国際資源学部

学科・コース		実施教科等	
		教科等	採点・評価の観点、基準等
国際資源学科	資源政策コース	面接	世界史、日本史、地理から受験生が選択する1科目についての基礎的な試問を含む面接を通じて、勉学意欲、資質および適性をみます。
	資源地球科学コース	面接	物理、化学、地学から受験生が選択する1科目についての基礎的な試問を含む面接を通じて、勉学意欲、資質および適性をみます。
	資源開発環境コース	面接	物理、化学から受験生が選択する1科目についての基礎的な試問を含む面接を通じて、勉学意欲、資質および適性をみます。

面接における試問の出題範囲は、各科目次のとおりです。

世界史（世界史A・世界史B）、日本史（日本史A・日本史B）、地理（地理A・地理B）

物理（物理基礎・物理）、化学（化学基礎・化学）、地学（地学基礎・地学）

大学入試センター試験の成績、調査書、推薦書および面接の結果を総合して判定します。

教育文化学部

課程・コース		実施教科等		受験を要する教科等
		教科等	採点・評価の観点、基準等	
学校教育課程	教育実践コース	小論文	教員の資質形成の基礎となる読解力、論理的思考能力、個性的な発想力、文章表現力をみます。	小論文および面接 または 実技検査（音楽・美術）および面接
		実技検査	[実技検査の採点・評価のねらい] 音楽：音楽基礎力、演奏技能・表現力を中心に採点・評価します。 美術：造形能力、表現能力、問題解決能力を中心に採点・評価します。 (35ページ「実技検査の内容」参照)	
		面接	[小論文を受験する場合の面接] 教員の資質形成の基礎となる音声言語における理解力、表現力、論理的思考能力、個性的な発想力等の総合的なコミュニケーション能力をみます。また、将来教職を担っていく意欲をみます。 [実技検査を受験する場合の面接] 音楽：音楽教育に関する意欲および資質について評価します。 美術：美術教育に関する意欲および資質について評価します。	
	英語教育コース	小論文	教育一般および英語教育に関連する事象に関して、英語教員の資質形成の基礎となる理解力、思考力、文章表現力、関心意欲を英語によるライティングテストを通してみます。	小論文（英文）および面接（英語スピーキングテスト）
面接		現在の英語教育や異文化間コミュニケーションに関連する事象について、関心意欲を持っているか、相手の意図を理解しようとしているか、自分の考えを積極的かつ効果的に伝えようとしているかなど、総合的なコミュニケーション能力があるかどうか、スピーキングテストを通してみます。		
理数教育コース	面接	教員志望の動機および数学または理科についての試問※を含む面接を通じて、学習意欲、適性をみます。	面接	
こども発達コース	小論文	現代の文化・社会や教育・保育に関する日本語の文章を素材にして設問し、論述させ、理解力・思考力・表現力等をみます。	小論文および面接	
	面接	教育・保育や心理・発達に関する試問を含む面接を通して、目的意識、学習意欲、思考力および表現力をみます。		

大学入試センター試験の成績、調査書、推薦書、小論文（教育実践コースは小論文または実技検査）および面接の結果を総合して判定します。

※理数教育コースの面接における試問について

・数学または理科から1教科を選択します。

・数学は数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学A、数学Bとします。数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学Aの出題範囲は、高等学校学習指導要領に記載されている全項目を出題範囲とします。ただし、数学Bは「数列」および「ベクトル」を出題範囲とします。

・理科の場合は、物理（物理基礎・物理）、化学（化学基礎・化学）、生物（生物基礎・生物）、地学（地学基礎・地学）から1科目を選択します。

実技検査の内容

教育文化学部 学校教育課程 教育実践コース
<p>【音楽】 実技の内容：1～3のジャンルから2つを選択し、演奏する。 1. ピアノ（任意の楽曲を選び、暗譜で演奏） 2. 声楽（以下の4曲から1曲を選び、原語および暗譜で演奏） a. 滝廉太郎作曲 荒城の月 二短調 b. 山田耕筰作曲 この道 ホ長調 c. A. スカルラッチェ作曲 Sento nel core へ短調 d. A. カルダーラ作曲 Sebben, crudele 二短調 ※伴奏は大学教員が担当します。伴奏譜は大学で用意します。 3. 管楽器，弦楽器，打楽器，和楽器 （1つの楽器を選び、任意の独奏曲を暗譜，無伴奏で演奏） ※独奏パート譜（楽器名を記載し，推薦入試と明記したもの）を出願時に提出してください。 使用する楽器は次に示すものとし，各自持参してください。 ただし，マリンバ（Cスケール，4オクターヴ）は大学で用意します。 管楽器・・・フルート，オーボエ，クラリネット，サクソフォーン，ファゴット，ホルン， トランペット，トロンボーン，ユーフォニアム，テューバ 弦楽器・・・ヴァイオリン，ヴィオラ，チェロ，コントラバス 打楽器・・・マリンバ 和楽器・・・三味線，箏，尺八</p> <p>【美術】 実技の内容：基礎的な立体および平面の造形（3時間） ※実技検査に必要なものは本学で用意します。</p>

医学部

学科・専攻等		実施教科等		受験を要する教科等
		教科等	採点・評価の観点，基準等	
医 学 科	一般枠	小論文	社会・文化・自然科学・医療等に関する日本語および英語の文章を素材にしていくつかの設問をし，それに対して論述させ，理解力・思考力・表現力等をみます。	小論文および面接
		面接	調査書を参考に，医師としての適性，即ちコミュニケーション能力・科学的思考・論理的思考，医師としての倫理性，社会への関心度，積極性・意欲・将来性等について評価します。（集団面接）	
	秋田県地域枠 全国地域枠	小論文	社会・文化・自然科学・医療等に関する日本語および英語の文章を素材にしていくつかの設問をし，それに対して論述させ，理解力・思考力・表現力等をみます。	小論文および面接
		面接	調査書を参考に，地域医療に貢献する強い意欲，医師としての適性，即ちコミュニケーション能力・科学的思考・論理的思考，医師としての倫理性，社会への関心度，積極性・意欲・将来性等について評価します。（個別面接）	
保 健 学 科	看護学専攻	面接	人の健康・生活に対する関心や理解，学習意欲と目的意識，他者への共感とコミュニケーション能力，協調性などをみます。	面接
	理学療法学専攻 作業療法学専攻	小論文	医療技術者としての適性と資質を判断するため，思考力，洞察力，表現力などをみます。	小論文および面接
		面接	人の健康・生活に対する関心や理解，学習意欲と目的意識，他者への共感とコミュニケーション能力，協調性などをみます。	

大学入試センター試験の成績，調査書，推薦書，志願理由書（医学科のみ），小論文（保健学科看護学専攻は除く。）および面接の結果を総合して判定します。

理工学部

学科・コース		実施教科等	
		教科等	採点・評価の観点，基準等
生命科学科	生命科学コース	面接	面接により、「関心・意欲・態度」，「表現力」，「知識・教養」，「思考力・判断力」，「協働性」を評価します。
物質科学科	応用化学コース	面接	面接により、「関心・意欲・態度」，「表現力」，「知識・教養」，「思考力・判断力」，「協働性」を評価します。
	材料理工学コース	面接	面接により、「関心・意欲・態度」，「表現力」，「知識・教養」，「思考力・判断力」，「協働性」を評価します。
数理・電気電子情報学	数理学コース	面接	面接により、「関心・意欲・態度」，「表現力」，「知識・教養」，「思考力・判断力」，「協働性」を評価します。
	電気電子工学コース	面接	面接により、「関心・意欲・態度」，「表現力」，「知識・教養」，「思考力・判断力」，「協働性」を評価します。
	人間情報工学コース	面接	面接により、「関心・意欲・態度」，「表現力」，「知識・教養」，「思考力・判断力」，「協働性」を評価します。
システムデザイン工学科	機械工学コース	面接	面接により、「関心・意欲・態度」，「表現力」，「知識・教養」，「思考力・判断力」，「協働性」を評価します。
	土木環境工学コース	面接	面接により、「関心・意欲・態度」，「表現力」，「知識・教養」，「思考力・判断力」，「協働性」を評価します。

大学入試センター試験の成績と面接の結果を総合して判定します。

(2) 大学入試センター試験の受験を要する教科・科目および注意事項

本学が指定する教科・科目を一つでも受験していない場合は，出願できません。各学部における注意事項をよく読み，漏れがないよう注意してください。

〔国際資源学部〕

教科・科目		受験を要する教科・科目名																														
		国語	地理歴史				公民			数学				理科				外国語														
学部・学科・コース	パターン	国語	世界史A	世界史B	日本史A	日本史B	地理A	地理B	現代社会	倫理	政治・経済	倫理、政治・経済	数学I	数学I・数学A	数学II	数学II・数学B	簿記・会計	情報関係基礎	物理基礎	化学基礎	生物基礎	地学基礎	物理	化学	生物	地学	英語	ドイツ語	フランス語	中国語	韓国語	
		国際資源学部	国際資源学科	資源政策コース	◎	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	△	△	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○
1															1																	
資源地球科学コース	①		◎	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	△	△		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	②		◎	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	△	△		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
資源開発環境コース	①		◎	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	△	△		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	②		◎	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	△	△		×	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○

◎は必ず受験する科目，×は本学では採用しない科目，○および△は選択して受験を要する科目，その下欄の数字は必要科目数を示します。ただし，△の科目については，選択できる者に制限があります。

〔国際資源学部における注意事項〕

- ア 数学で「簿記・会計」および「情報関係基礎」を選択解答できる者は，高等学校もしくは中等教育学校においてこれらの科目を履修した者および文部科学大臣の指定を受けた専修学校の高等課程の修了（見込み）の者に限ります。
- イ 理科で「基礎を付した科目」2科目と「基礎を付さない科目」1科目を選択する場合には，「同一名称を含む科目」を選択することができます。
- ウ 英語にはリスニングテストを含みます。なお，「英語」以外の科目を受験した者およびリスニングの受験を免除された者については，筆記試験（200点満点）の成績を素点として利用します。
- エ それぞれのパターンのいずれかを満たすように受験してください。
- オ 資源政策コースの数学で，2科目受験した場合は，高得点の科目を合格判定に用います。

〔教育文化学部〕

教科・科目		受験を要する教科・科目名																														
		国語	地理歴史				公民			数学					理科				外国語													
学部・課程・コース	パターン	国語	世界史A	世界史B	日本史A	日本史B	地理A	地理B	現代社会	倫理	政治・経済	倫理・政治・経済	数学I	数学I・数学A	数学II	数学II・数学B	簿記・会計	情報関係基礎	物理基礎	化学基礎	生物基礎	地学基礎	物理	化学	生物	地学	英語	ドイツ語	フランス語	中国語	韓国語	
		教育文化学部	教育学	教育実践コース	①	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
1	2				1			2					1				1															
②	○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○
1	2				1			2					1				1															
③	○				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△	△	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
1	1				1			2					1				1															
文教	英語教育コース		①	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
			1	1				1			2					1				1												
			②	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
			1	1				1			2					1				1												
			①	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	×	○	△	△	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
			1	1				1			2					1				1												
学課程	こども発達コース		①	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
			1	2				1			2					1				1												
			②	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
			1	2				1			2					1				1												
			③	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
			1	1				1			2					1				1												
部	こども発達コース		④	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△	△	×	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	
			1	1				1			2					1				1												
			⑤	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△	△	○	○	○	○	○	×	×	×	×	○	○	○	○
			1	2				1			2					1				1												
			⑥	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△	△	×	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○
			1	2				1			2					1				1												

◎は必ず受験する科目、×は本学では採用しない科目、○および△は選択して受験を要する科目、その下欄の数字は必要科目数を示します。ただし、△の科目については、選択できる者に制限があります。

〔教育文化学部における注意事項〕

- ア 地理歴史においては、同一名称のA・B出題科目、公民においては、同一名称を含む出題科目同士の選択はできません。
- イ 数学で「簿記・会計」および「情報関係基礎」を選択解答できる者は、高等学校もしくは中等教育学校においてこれらの科目を履修した者および文部科学大臣の指定を受けた専修学校の高等課程の修了（見込み）の者に限ります。
- ウ 理科で「基礎を付した科目」2科目と「基礎を付さない科目」1科目を選択する場合には、「同一名称を含む科目」を選択することができます。
- エ 英語にはリスニングテストを含みます。なお、「英語」以外の科目を受験した者およびリスニングの受験を免除された者については、筆記試験（200点満点）の成績を素点として利用します。
- オ 大学入試センター試験で1科目を指定しているもののうち、地理歴史・公民の試験時間において2科目受験した場合は、解答順に、前半に受験した科目を第1解答科目、後半に受験した科目を第2解答科目とし、第1解答科目の得点を合格判定に用います。
- カ 大学入試センター試験で1科目を指定しているもののうち、「基礎を付さない」理科の試験時間において2科目受験した場合は、解答順に、前半に受験した科目を第1解答科目、後半に受験した科目を第2解答科目とし、第1解答科目の得点を合格判定に用います。
- キ それぞれのパターンのいずれかを満たすよう受験してください。複数のパターンを満たす場合は、高得点のパターンを合格判定に用います。

〔医学部〕

教科・科目		受験を要する教科・科目名																														
		国語	地理歴史				公民			数学					理科				外国語													
学部・学科・専攻	パターン	国語	世界史A	世界史B	日本史A	日本史B	地理A	地理B	現代社会	倫理	政治・経済	倫理、政治・経済	数学I	数学I・数学A	数学II	数学II・数学B	簿記・会計	情報関係基礎	物理基礎	化学基礎	生物基礎	地学基礎	物理	化学	生物	地学	英語	ドイツ語	フランス語	中国語	韓国語	
		医学部	医学科	◎	×	○	×	○	×	○	×	×	×	○	×	◎	×	○	△	△	×	×	×	×	○	○	○	×	○	○	○	○
	1		1							1	1						2		1													
保健学科	看護学専攻		①	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	◎	×	○	△	△	○	○	○	×	×	×	×	×	○	○	○	○	○
			1	1							1	1		2				1														
	②		◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	◎	×	○	△	△	×	×	×	×	○	○	○	×	○	○	○	○	○	
	1		1							1	1						1		1													
理学療法専攻 作業療法専攻	①		◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	◎	×	○	△	△	○	○	○	×	○	○	○	×	○	○	○	○	○	
			1	1							1	1		2				1		1												
	②		◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	◎	×	○	△	△	×	×	×	×	○	○	○	×	○	○	○	○	○	
	1		1							1	1		2				2		1													
③	◎		○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	◎	×	○	△	△	○	○	○	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	○	
	1		2							1	1		2						1													
④	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	◎	×	○	△	△	×	×	×	×	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○		
	1	2							1	1						1		1														

◎は必ず受験する科目、×は本学では採用しない科目、○および△は選択して受験を要する科目、その下欄の数字は必要科目数を示します。ただし、△の科目については、選択できる者に制限があります。

〔医学部における注意事項〕

- ア 地理歴史においては、同一名称のA・B出題科目、公民においては、同一名称を含む出題科目同士の選択はできません。
- イ 数学で「簿記・会計」および「情報関係基礎」を選択解答できる者は、高等学校もしくは中等教育学校においてこれらの科目を履修した者および文部科学大臣の指定を受けた専修学校の高等課程の修了（見込み）の者に限ります。
- ウ 理科で「基礎を付した科目」2科目と「基礎を付さない科目」1科目を選択する場合には、「同一名称を含む科目」を選択することができます。
- エ 英語にはリスニングテストを含みます。なお、「英語」以外の科目を受験した者およびリスニングの受験を免除された者については、筆記試験（200点満点）の成績を素点として利用します。
- オ 大学入試センター試験で1科目を指定しているもののうち、地理歴史・公民の試験時間において2科目受験した場合は、解答順に、前半に受験した科目を第1解答科目、後半に受験した科目を第2解答科目とし、第1解答科目の得点を合格判定に用います。
- カ 大学入試センター試験で1科目を指定しているもののうち、「基礎を付さない」理科の試験時間において2科目受験した場合は、解答順に、前半に受験した科目を第1解答科目、後半に受験した科目を第2解答科目とし、第1解答科目の得点を合格判定に用います。
- キ それぞれのパターンのいずれかを満たすよう受験してください。複数のパターンを満たす場合は、高得点のパターンを合格判定に用います。

〔理工学部〕

教科・科目		受験を要する教科・科目名																															
		国語	地理歴史				公民			数学					理科				外国語														
学部・学科・コース		パターン	国語	世界史A	世界史B	日本史A	日本史B	地理A	地理B	現代社会	倫理	政治・経済	倫理・政治・経済	数学I	数学I・数学A	数学II	数学II・数学B	簿記・会計	情報関係基礎	物理基礎	化学基礎	生物基礎	地学基礎	物理	化学	生物	地学	英語	ドイツ語	フランス語	中国語	韓国語	
理	生命科学科	生命科学コース	①	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	△	△	○	○	○	×	○	○	○	×	○	○	○	○	○	
		②	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	△	△	×	×	×	×	○	○	○	×	○	○	○	○	○	
	物質科学科	応用化学コース	①	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	△	△	○	○	○	×	○	○	○	×	○	○	○	○	○	
		②	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	△	△	×	×	×	×	○	○	○	×	○	○	○	○	○	
	材料理工学コース	①	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	△	△	○	○	○	×	○	○	○	×	○	○	○	○	○	
		②	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	△	△	×	×	×	×	○	○	○	×	○	○	○	○	○	
	工	数理科学コース	①	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	△	△	○	○	○	×	○	○	○	×	○	○	○	○	○	
			②	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	△	△	×	×	×	×	○	○	○	×	○	○	○	○	○	
		電気電子工学コース	①	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	△	△	○	○	○	×	○	○	○	×	○	○	○	○	○
			②	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	△	△	×	×	×	×	○	○	○	×	○	○	○	○	○
		人間情報工学コース	①	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	△	△	○	○	○	×	○	○	○	×	○	○	○	○	○
			②	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	△	△	×	×	×	×	○	○	○	×	○	○	○	○	○
部	システムデザイン工学コース	①	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	△	△	○	○	○	×	○	○	○	×	○	○	○	○	○		
		②	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	△	△	×	×	×	×	○	○	○	×	○	○	○	○	○		
	土木環境工学コース	①	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	△	△	○	○	○	×	○	○	○	×	○	○	○	○	○	
		②	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	△	△	×	×	×	×	○	○	○	×	○	○	○	○	○	

◎は必ず受験する科目、×は本学では採用しない科目、○および△は選択して受験を要する科目、その下欄の数字は必要科目数を示します。ただし、△の科目については、選択できる者に制限があります。

〔理工学部における注意事項〕

- ア 数学で「簿記・会計」および「情報関係基礎」を選択解答できる者は、高等学校もしくは中等教育学校の専門教育を主とする学科（理数科を除く。）または総合学科の卒業（見込み）者ならびに文部科学大臣の指定を受けた専修学校の高等課程の修了（見込み）の者に限ります。
- イ 理科で「基礎を付した科目」2科目と「基礎を付さない科目」1科目を選択する場合には、「同一名称を含む科目」を選択することができます。
- ウ 英語にはリスニングテストを含みます。なお、「英語」以外の科目を受験した者およびリスニングの受験を免除された者については、筆記試験（200点満点）の成績を素点として利用します。
- エ それぞれのパターンのいずれかを満たすよう受験してください。

(3) 大学入試センター試験および個別学力検査等の配点

学部・学科・課程等		試験の区分	国語	地歴公民	数学	理科	外国語	実技検査	小論文	面接	合計	
国際資源学部	国際資源学科	資源政策コース	センター試験 200 (200×1.0×1)		100 (100×1.0×1)		200 (200×1.0×1)				500	800
		個別学力検査							300	300		
	資源地球科学コース	センター試験	200 (200×1.0×1)		200 (100×1.0×2)	200 (100×1.0×2)	200 (200×1.0×1)				800	1100
		個別学力検査							300	300		
	資源開発環境コース	センター試験	200 (200×1.0×1)		200 (100×1.0×2)	200 (100×1.0×2)	200 (200×1.0×1)				800	1100
		個別学力検査							300	300		
教育文化学部	学校教育課程	教育実践コース	センター試験 200×2/3 (200×1.0×1)	※100×2/3 ※100×2/3 (100×1.0×1)	※100×2/3 ※100×2/3 (100×0.5×1)	※100×2/3 ※100×2/3 (100×0.5×1)	200×2/3 (200×0.5×1)				600	1000
		個別学力検査						#200	#200	200	400	
		英語教育コース	センター試験 200 (200×1.0×1)	100 (100×1.0×1)	50 (100×0.5×1)	50 (100×0.5×1)	200 (200×1.0×1)				600	1000
		個別学力検査						200	200	400		
理数教育コース	センター試験 200×7/9 (200×0.5×1)	100×7/9 (100×0.5×1)	200×7/9 (100×0.5×1)	200×7/9 (100×0.5×1)	200×7/9 (200×0.5×1)				700	1000		
個別学力検査							300	300				
こども発達コース	センター試験 100 (200×0.5×1)	※50 ※50 (100×0.5×1)	※50 ※50 (100×0.5×1)	※50 ※50 (100×0.5×1)	100 (200×0.5×1)				450	750		
個別学力検査						200	100	300				
医学部	医学科	センター試験 100 (200×0.5×1)	50 (100×0.5×1)	100 (100×0.5×2)	100 (100×0.5×2)	100 (200×0.5×1)				450	700	
		個別学力検査						100	150 調査書を含む	250		
	保健学科	看護学専攻	センター試験 160 (200×0.8×1)	80 (100×0.8×1)	160 (100×0.8×2)	80 (100×0.8×1)	160 (200×0.8×1)				640	840
		個別学力検査							200 調査書120を含む	200		
	理学療法専攻	センター試験 200 (200×1.0×1)	※100 ※100 (100×1.0×1)	200 (100×1.0×2)	※100 ※100 (100×1.0×1)	200 (200×1.0×1)				900	1300	
		個別学力検査						200	200 調査書100を含む	400		
作業療法専攻	センター試験 140 (200×0.7×1)	※70 ※70 (100×0.7×1)	140 (100×0.7×2)	※70 ※70 (100×0.7×1)	140 (200×0.7×1)				630	1030		
個別学力検査						200	200 調査書を含む	400				
理工学部	生命科学科 生命科学コース											700
	物質科学科 応用化学コース	センター試験		200 (100×1.0×2)	200 (100×1.0×2)	200 (200×1.0×1)				600		
	材料理工学コース											
	数理・電気電子情報学科 数理科学コース											
	電気電子工学コース											
	人間情報工学コース											
	システムデザイン工学科 機械工学コース 土木環境工学コース	個別学力検査							100	100		

注1：センター試験欄の（ ）内は、大学入試センター試験の素点、傾斜率および科目数を示します。（素点×傾斜率×科目数）

注2：大学入試センター試験の理科の素点は、「基礎を付した科目」2科目選択で100点、「基礎を付さない科目」1科目選択で100点とします。

注3：大学入試センター試験の外国語で「英語」を選択した場合は、「筆記」と「リスニング」の配点比率を4：1とします。なお、「英語」以外の科目を受験した者およびリスニングの受験を免除された者については、筆記試験（200点満点）の成績を、素点として利用します。

注4：教育文化学部および医学部保健学科のセンター試験欄の※印は、このうちから必要科目を選択するものです。

注5：教育文化学部学校教育課程教育実践コースの個別学力検査欄の#印は、1つを選択するものです。

(4) 合格者の決定方法

学 部 等		合 格 者 の 決 定 方 法	
国際資源学部		1 大学入試センター試験と個別学力検査等の得点の総合点に基づいて合格者を決めます。 2 総合点が同点の場合は同順位として取り扱いいます。 3 欠員が生じた場合は、前期日程試験あるいは後期日程試験で補充します。	
教育文化学部		1 大学入試センター試験と個別学力検査等を総合的に判断し合格者を決めます。ただし、大学入試センター試験の合格判定に用いる科目と個別学力検査等に無得点の科目がある場合は、合計点にかかわらず合格者としません。 なお、合計点が同点の場合は同順位として取り扱いいます。 2 次の課程では、個別学力検査等のうちの指定科目の得点が基準点に満たない者は、合計点にかかわらず合格者としません。	
		課 程 ・ コ ー ス	指 定 科 目 (基 準 点 : 総 点 の 4 割)
		学校教育課程・教育実践コース	小論文 (80点), 実技検査 (80点), 面接 (80点)
		学校教育課程・英語教育コース	小論文 (80点), 面接 (80点)
		学校教育課程・理数教育コース	面接 (120点)
		学校教育課程・こども発達コース	小論文 (80点), 面接 (40点)
医 学 部	医 学 科	1 大学入試センター試験と個別学力検査等を総合的に判断し合格者を決めます。 2 面接において面接員が「不可」の評価をした場合は、合格者としません。 3 地域枠の選抜においては、僻地医療を含む地域医療に貢献する意欲等を勘案して総合的に判定します。	
	保健学科	1 大学入試センター試験と個別学力検査等の総合点に基づいて合格者を決めます。 2 面接において面接員が「不可」の評価をした場合は、合格者としません。 3 総合点が同点の場合には、個別学力検査等の成績上位者を優先します。	
理 工 学 部		1 大学入試センター試験と個別学力検査等の総合点に基づいて合格者を決めます。 2 欠員が生じた場合は、前期日程試験あるいは後期日程試験で補充します。	

4 試験の日程

学 部 等		試 験 日	集 合 時 刻	小 論 文	面 接	実 技 検 査 お よ び 面 接	
国際資源学部	国際資源学科	令和2年1月24日(金)	8:30	—	9:00～17:00	—	
教育文化学部	実技検査選択者	令和2年1月24日(金)	8:30	—	—	9:00～18:00	
	理数教育コース		8:30	—	9:00～17:00	—	
	上記以外の者		8:30	9:00～10:00	10:30～18:00	—	
医 学 部	医 学 科	一 般 枠	令和2年1月23日(木)	8:30	9:00～11:00	11:30～18:00	—
		秋田県地域枠 および 全国地域枠	令和2年1月23日(木)	8:30	9:00～11:00	—	—
			令和2年1月24日(金)	8:30	—	9:00～18:00	—
	保 健 学 科	看 護 学 専 攻	令和2年1月24日(金)	8:30	—	9:00～17:00	—
		理学療法学専攻 作業療法学専攻		8:30	9:00～10:30	11:00～17:00	—
理 工 学 部	全 学 科 全 コ ー ス	令和2年1月24日(金)	8:30	—	9:00～17:00	—	

注：面接の終了時刻は、受験者数により変わる場合があります。

5 試験場

学 部	試 験 場
国 際 資 源 学 部	秋田大学国際資源学部試験場（手形キャンパス：秋田市手形学園町1番1号）
教 育 文 化 学 部	秋田大学教育文化学部試験場（手形キャンパス：秋田市手形学園町1番1号）
医 学 部	秋田大学医学部試験場（本道キャンパス：秋田市本道一丁目1の1）
理 工 学 部	秋田大学理工学部試験場（手形キャンパス：秋田市手形学園町1番1号）

6 受験上の注意事項

- ① 試験当日は、「令和2年度秋田大学受験票」および「令和2年度大学入試センター試験受験票」を忘れずに必ず持参してください。なお、試験室棟に入る際には、両方の受験票を係員に提示してください。また、試験時間中は両方の受験票を机の上に置いてください。
- ② 試験当日は、受験者は8時10分から試験室棟へ入ることができます。
- ③ 試験開始時刻に遅刻した場合は、試験開始時刻後10分以内の遅刻に限り、受験を認めます。
- ④ 試験時間中の答案提出は認めません。
- ⑤ 小論文の試験室では、受験票、黒鉛筆、鉛筆キャップ、シャープペンシル、消しゴム、鉛筆削り（電動式・大型のもの・ナイフ類を除く。）、定規、時計（計時機能だけと判別が容易なもので、秒針音のするもの・大型のもの・アラームの鳴るものを除く。）、眼鏡、ティッシュペーパー（袋または箱から中身だけを取り出したもの）以外のものは、机の上に置くことはできません。
- ⑥ 携帯電話等の電子機器類を持参した場合は、試験室棟に入る前に必ずアラームの設定を解除し電源を切っておいてください。試験時間中、かばん等にしまわずに、身につけていたり手に持っていた場合は、不正行為となることがあります。
- ⑦ 不正行為を行った場合は以後の受験は認められず、個別学力検査等の受験は失格となります。
- ⑧ 試験場・試験室において、他の受験者の迷惑になる行為は行わないでください。
- ⑨ 試験場の下見は、試験前日の13時から17時までの間に行ってください。なお、下見は試験室棟入口までとし、試験室棟には入れません。
- ⑩ 試験前日および試験当日は、受験者および付添者の車両による入構を禁止します。なお、試験当日、試験場には、受験者および付添者の控室を設けています。
- ⑪ 受験者（特に遠隔地からの者）は、積雪等による交通機関の乱れを考慮し、前日までに秋田市内に到着する等ゆとりをもった日程を組むほか、衣類・履物等にも留意してください。
- ⑫ 大学入試センター試験受験票は、入学手続の際に必要となりますので、紛失しないよう注意してください。

7 出願手続

(1) 出願に必要な書類等

○ 全員が提出するもの

書 類 等	摘 要	
入 学 志 願 票	氏 名	漢字氏名およびふりがなを記入してください。
	生年月日, 性別	生年月日を記入し, 男・女のいずれかを○で囲んでください。
	出 願 資 格	出身学校所在地(都道府県名), 出身学校・学科名, 卒業(卒業見込み)年月を記入し, 該当箇所を○で囲んでください。
	志 望 先	志望する学部, 学科・課程, 専攻・コース・枠名と, 志願学部等の記号(欄外の記号一覧参照)を記入してください。
	選 択 受 験 科 目	教育文化学部学校教育課程志望者のうち, 教育実践コース志望者は小論文または実技検査(音楽・美術)のいずれかを○で囲んでください。理数教育コース志望者は, 面接の選択受験科目を○で囲んでください。
電 算 処 理 原 票	連 絡 先	本人の郵便番号, 住所, 電話番号および携帯電話番号を記入してください。 なお, 電話が呼出しとなる場合は, その氏名等を記入してください。
	本 人	本人の住所と異なる場合に, 保護者の郵便番号, 住所および電話番号を記入してください。
	保 護 者	本人の住所と異なる場合に, 保護者の郵便番号, 住所および電話番号を記入してください。
電 算 処 理 原 票	令和2年度大学入試センター試験受験科目目録	令和2年度大学入試センター試験で受験する科目すべてに, ○印をつけてください。(本学が指定する教科・科目を必ず受験してください。)
電 算 処 理 原 票		令和2年度大学入試センター試験の成績請求票(国公立推薦入試用)を貼ってください。また, □に記号を記入してください。
受 験 票 ・ 写 真 票		所要事項を記入し, 写真票に写真を貼ってください。写真は, 縦4cm, 横3cmで正面, 上半身, 無帽で出願前3か月以内に撮影したものとします。なお, 教育文化学部学校教育課程志望者のうち, 教育実践コースおよび理数教育コース志望者は選択受験科目を○で囲んでください。
検 定 料 収 納 証 明 書 貼 付 台 紙		検定料は, 17,000円 です。同封している「入学検定料支払方法のご案内」を参照のうえ, 令和元年11月28日(木)以降出願前までに払い込んでください。払込手数料が別途必要です。なお, 期間外は払い込みできません。 払い込みの際に受領する「取扱説明書」または「取扱明細書兼領収書」の「収納証明書」部分を切り取り, 「検定料収納証明書貼付台紙」にしっかりと貼ってください。 台紙には, 氏名, 志望先を記入してください。 出願手続完了後, 既納の検定料は, いかなる理由があっても返還しません。ただし, 出願受付後に大学入試センター試験受験科目の不足等による出願無資格者であることが判明した者に対しては, 検定料のうち13,000円を返還します。なお, 検定料の振込後に出願しなかった場合も返還しますので, 原則として令和元年12月19日(木)から令和元年12月25日(水)までの間に, 秋田大学経理・調達課出納担当(電話018-889-2234) へ申し出てください。
調 査 書		文部科学省所定の様式により在学(出身)学校長が作成し, 厳封したもの。 なお, 本学ではⒶ標示を求めておりませんのでⒶ標示であっても「A」として取り扱います。
推 薦 書		本学所定の様式により在学(出身)学校長が作成し, 厳封したもの(「推薦書記入上の注意」を確認のうえ, 記入してください。) なお, 様式は本学ホームページ(https://www.akita-u.ac.jp/)からダウンロードできます。
あ て 名 票		本学所定の用紙に, 受験番号以外の所要事項を記入してください。
受 験 票 送 付 用 封 筒		本学所定の封筒にあて先を明記し, 374円分の切手を必ず貼り付けてください。

○ 教育文化学部教育実践コース実技検査(音楽)志願者全員が提出するもの

書 類 等	摘 要
実 技 検 査 調 査 書	本学所定の用紙に, 必要事項を記入してください。

○ 医学部医学科および理工学部志願者全員が提出するもの

書 類 等	摘 要
志 願 理 由 書	本学所定の用紙に, 志願者本人が記入してください。

○ 理工学部志願者全員が提出するもの

書 類 等	摘 要
課 外 活 動 報 告 書	本学所定の用紙に, 在学(出身)学校長が作成し, 厳封したもの。なお, 様式は本学ホームページ(https://www.akita-u.ac.jp/)からダウンロードできます。 様式をダウンロードした場合はA4判で両面印刷してください。

(2) 出願方法

- ① 出願期間 令和元年 12月12日(木) から令和元年 12月18日(水) まで(必着)
 - ・出願書類は一括し、本要項に添付の出願用封筒に入れて、原則として郵送により提出してください。郵送の場合は、必ず「速達簡易書留」とし、郵送期間を十分に考慮してください。
 - ・持参の場合は、入試課窓口で9時から17時まで受付します。ただし、土曜日・日曜日は受付を行いません。
 - ・出願書類を在学(出身)学校においてとりまとめて提出する場合は、出願者ごとに出願用封筒に入れ、それらを別の封筒等に入れ、封筒の左側に「出願書類〇名分」と朱書きしてください。

② 出願書類の提出先

秋田大学入試課
〒010-8502 秋田市手形学園町1-1

(3) 出願にあたっての注意事項

- ① 出願書類等に不備がある場合は、これを受理しません。
- ② 受理した出願書類等の返還および記載事項の変更は認めません。
- ③ 出願後、連絡先に変更があった場合は、書面により届け出てください。
- ④ 国公立大学の推薦入試(大学入試センター試験を課す場合、課さない場合を含めて)への出願は、一つの大学・学部に限られています。したがって、本学の推薦入試に出願した場合は、他の国公立大学の推薦入試(大学入試センター試験を課す場合、課さない場合を含めて)へ出願することはできません。また、他の国公立大学の推薦入試(大学入試センター試験を課す場合、課さない場合を含めて)に不合格となった者が本学の推薦入試へ出願することはできません。
ただし、本学の教育文化学部学校教育課程教育実践コースの推薦入試Ⅰで不合格になった者は、同コースの推薦入試Ⅱに出願することができます。

(4) 受験票の送付について

本学では、提出された出願書類等を確認のうえ、受験票を送付します。令和2年1月6日(月)までに受験票が届かない場合は、必ず本学入試課まで問い合わせてください。

8 合格者の発表

令和2年2月10日(月) 13時(予定)

本学手形キャンパス内に合格者の受験番号を掲示するとともに、合格者には合格通知書を、在学(出身)学校長には合否通知書を郵送します。また、秋田大学ホームページ(<https://www.akita-u.ac.jp/>)に合格者の受験番号を掲載します。

なお、ホームページへの掲載は、情報サービスの一環として行っておりますので、必ず本学掲示板または合格通知書で確認してください。

注) 電話による問い合わせには一切応じません。

9 入学手続

入学手続期間 令和2年2月18日(火)・19日(水)

入学手続の方法 53ページに記載のとおり

10 個人の成績等の開示

受験者の個人成績は、合格者および不合格者本人に次により開示します。

(1) 開示内容

- ① 国際資源学部
得点
・大学入試センター試験(本学が課した教科・科目の傾斜配点後の得点)
・個別学力検査等(面接の得点)
順位等
・A, B, C等のランク区分で開示
*ただし、合格者(不合格者)が3名未満の場合を除く。
調査書
・「各教科・科目等の学習の記録」、「各教科の評定平均値」および「学習成績概評」欄
- ② 教育文化学部
得点
・大学入試センター試験(本学が課した教科・科目の傾斜配点後の得点)
・個別学力検査等(実技検査、小論文、面接の得点)
順位等
・A, B, C等のランク区分で開示
*ただし、合格者(不合格者)が3名未満の場合を除く。

調査書
・「各教科・科目等の学習の記録」, 「各教科の評定平均値」 および 「学習成績概評」 欄

③ 医学部医学科

得点
・大学入試センター試験（本学が課した教科・科目の傾斜配点後の得点）
・個別学力検査等（小論文は得点，面接はA，B，C等の段階評価）
順位等
・A，B，C等のランク区分で開示
調査書
・「各教科・科目等の学習の記録」, 「各教科の評定平均値」 および 「学習成績概評」 欄

④ 医学部保健学科

得点
・大学入試センター試験（本学が課した教科・科目の傾斜配点後の得点）
・個別学力検査等（小論文は得点，面接はA，B，C等の段階評価）
順位等
・A，B，C等のランク区分で開示
調査書
・「各教科・科目等の学習の記録」, 「各教科の評定平均値」 および 「学習成績概評」 欄

⑤ 理工学部

得点
・大学入試センター試験（本学が課した教科・科目の傾斜配点後の得点）
・個別学力検査等（面接の得点）
順位等
・A，B，C等のランク区分で開示
*ただし，合格者（不合格者）が3名未満の場合を除く。
調査書
・「各教科・科目等の学習の記録」, 「各教科の評定平均値」 および 「学習成績概評」 欄

(2) 申込期間

令和2年5月1日（金）～令和2年6月30日（火）（持参の場合の受付は，土・日・祝日を除く，8時30分から17時まで）

(3) 申込者

受験者本人に限ります（代理人は不可）。

(4) 申込方法

窓口への持参および郵送で受け付けます。注意事項をよく読み，次の書類等により申し込んでください。

- ・本学の受験票
- ・入試成績開示申込書
- ・返信用の封筒

注意事項

- ・申込みの際，本学の受験票が必要となります。開示を希望する場合は申込期間前に誤って廃棄しないよう注意してください。
- ・入試成績開示申込書は持参・郵送にかかわらず必ず受験者本人が記入し，持参する場合は受験者本人が持参してください。代理人による申し込みはできません。
- ・入試成績開示申込書は本学ホームページ (<https://www.akita-u.ac.jp/>) 「入試情報→成績開示について」からダウンロードしてください。
- ・返信用封筒は長形3号に限るものとし，おもて面に受験者の郵便番号・住所・氏名を明記し，414円分の切手を貼ってください。

申込窓口 秋田大学入試課
〒010-8502 秋田市手形学園町1番1号 電話 018-889-2256

(5) 開示方法

申込みが受理されてから1ヵ月以内に，受験者本人あてに簡易書留郵便で送付します。

共 通 事 項

(推薦入試 I・II)

1 国際資源学部の入学志願者へ

国際資源学部では、3年次に全員が4週間程度の海外実習「海外資源フィールドワーク」(必修)を行います。実習にかかる経費については、一部は大学が負担し、無理のない渡航計画を立てられるようサポートします。詳細については、入学後のオリエンテーションにおいて説明します。

2 教育文化学部の入学志願者へ

(1) 学校教育課程教育実践コース(推薦入試Ⅱ)

学校教育課程教育実践コースでは、個別学力検査等で小論文か、実技検査(音楽または美術)を選択して受験することになりますが、合格予定者数は、受験する科目ごとにおおむね次のとおりとします。

小論文で受験する者	6人
音楽で受験する者	1人
美術で受験する者	2人

(2) 学校教育課程教育実践コースに入学した者は、入学後の適切な時期に専門領域(教科等)を決定します。この決定は、入学試験の際に選択した受験科目にかかわらず、原則として本人の希望および入学後の学習状況に基づいて行います。

学校教育課程教育実践コースの専門領域(教科等)は、次のとおりです。
国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、家庭、英語

(3) 地域文化学科に入学した者は、入学後の適切な時期にコースを決定します。この決定は、入学試験の際に受験した科目にかかわらず、原則として本人の希望および入学後の状況等に基づいて行います。

地域文化学科のコースは、次のとおりです。

コース：地域社会コース
国際文化コース
心理実践コース

3 配慮を必要とする入学志願者の事前相談について

病気・負傷、身体障害および発達障害等の心身の機能の障害(以下、「障害等」という。)により、受験上および修学上の配慮を必要とする可能性のある入学志願者は、出願に先立ち、48ページの様式に必要事項を記入の上、医師の診断書等を添えて、下記の期限までに本学入試課に相談してください。日常生活においてごく普通に使用している補聴器、松葉杖、車椅子等を使用して受験する場合や期限後に不慮の事故等により、受験上の配慮が必要となった場合には、速やかに相談してください。

また、障害等の程度によっては、事前の準備が必要となる場合がありますので、本学への出願を迷っている場合でもあらかじめ相談いただき、進路決定等により特別措置が不要となった場合には、その旨入試課までお知らせください。なお、事前相談の内容等が合否判定のための資料になることはありません。

○事前相談の期限

試験区分	事前相談の期限
推薦入試Ⅰ	令和元年10月23日(水)
推薦入試Ⅱ	令和元年12月5日(木)

○相談先

秋田大学入試課
〒010-8502 秋田市手形学園町1番1号
電話 018-889-2256

○様式（A4判）

受験上および修学上の配慮を必要とする入学志願者の事前相談書		
令和 年 月 日		
試験区分	推薦Ⅰ，推薦Ⅱ， ※どちらかを○で囲んでください。	
志望学部等	学部	学科 課程 専攻 コース
氏名 (年齢)	(歳)	
連絡先	〒 - 電話 - -	
障害等の種類・程度 ※ 医師の診断書等障害の状況がわかるものを必ず添付してください。		
受験上希望する配慮の内容		
修学上希望する配慮の内容 ※入学が確定した後，学生サポートルームから相談内容について連絡する場合があります。		
出身学校等で取られていた特別措置		
大学入試センター試験受験時の特別措置		
日常生活の状況		
出身学校等	学校名等	〒 - 電話 - -
	所在地および 電話番号	

○様式ダウンロード先

秋田大学ホームページ (<https://www.akita-u.ac.jp/>) 「入試情報→特別措置について」で確認してください。

4 検定料免除について

災害救助法が適用される自然災害により被災された方々の経済的負担を軽減し、受験生の進学機会の確保を図るために、検定料免除の特別措置を講じます。

検定料の免除を希望される方は、**出願前に必ず入試課までご連絡ください。**

* 秋田大学入試課 電話 018-889-2256

(1) 対象者

自然災害により災害救助法の適用を受けた地域において被災し、次のいずれかに該当する方

① 学資負担者が所有する自宅家屋の全壊、大規模半壊、半壊、流失の被害を受けた方（ただし、東日本大震災により被災した場合は、次の災害救助法適用地域において被災した志願者）

〔岩手県、宮城県、福島県の全市町村
青森県、茨城県、栃木県、千葉県の災害救助法適用市町村〕

② 学資負担者が災害により死亡または行方不明の方

③ 学資負担者の居住地が福島第一原子力発電所事故により、警戒区域または計画的避難区域等に指定された方

(2) 申請の方法

事前に本学入試課に連絡し、該当すると判断された方は、所定の申請書類を(4)の申請期限までに提出してください。提出の際には、封筒の表に「検定料免除申請書在中」と朱書きし、返信用封筒（長形3号，84円切手貼付，住所・氏名記入）を同封してください。

なお、この申請を行う場合は、出願時に「検定料」を払い込まないでください。

(3) 申請書類及び証明書

① 申請書類

・「検定料免除申請書」（別紙様式）（本学ホームページ（<https://www.akita-u.ac.jp/>）「入試情報→検定料免除について」からダウンロードできます。）

② 証明書

・「り災証明書」（上記（1）の①に該当する方）

・「死亡または行方不明を証明する書類」（上記（1）の②に該当する方）

・「被災証明書」（上記（1）の③に該当する方）

(4) 申請期限	推薦入試Ⅰ	令和元年10月23日（水）
	推薦入試Ⅱ	令和元年12月5日（木）

(5) 許可または不許可の通知

① 許可された方には、出願受付期間前までに「決定通知書」を送付いたします。願書の提出に当たっては検定料を納付せず、送付された「決定通知書」を「検定料振替払込受付証明書貼付台紙」に貼って提出してください。

② 不許可の方には、出願受付期間前までに別途通知いたします。願書の提出に当たっては、検定料を納付の上必要な手続をしてください。

検定料の納付がない方の当該入学者選抜試験に係る出願は受理しません。

(6) その他

諸事情により、申請期限までに申請書類および証明書が提出できない場合は、一旦検定料を納付した上で、願書を提出してください。

5 入学料免除・徴収猶予および授業料免除について

(1) 入学料免除・徴収猶予

入学料免除または徴収猶予を希望する者は、以下により申請手続を行ってください。

- ① 入学料免除の対象者（次のいずれかに該当する場合には限られます。）
 - ア) 経済的理由により納付が困難であり、かつ学業優秀と認められる者
 - イ) 平成31年4月から令和2年3月までの間に本人の学資を主として負担している者（以下「学資負担者」という。）が死亡し、または本人もしくは学資負担者が風水害・地震等の災害を受けたことにより、納付が困難であると認められる者
 - ② 入学料徴収猶予の対象者（次のいずれかに該当する場合には限られます。）
 - ア) 経済的理由により納付期限までに納付が困難であり、かつ学業優秀と認められる者
 - イ) 平成31年4月から令和2年3月までの間に本人の学資を主として負担している者（以下「学資負担者」という。）が死亡し、または本人もしくは学資負担者が風水害・地震等の災害を受けたことにより、納付期限までに納付が困難であると認められる者
 - ③ 免除の額
入学料の免除が必要と認められた者に対して、納付すべき入学料の全額または半額を免除します。
 - ④ 申請書類の請求方法および請求先
「返信用封筒・請求用封筒の記入例」（51ページ参照）により、請求してください。
請求先：〒010-8502 秋田市手形学園町1番1号 秋田大学学生支援・就職課
* 請求用封筒の左下に「入学料免除・徴収猶予申請書類請求」と朱書きしてください。
なお、直接学生支援・就職課の窓口においても請求できます。
 - ⑤ 請求期間（合格発表の前に請求してください。）
令和2年1月15日（水）から入学手続期間開始の10日前までに請求してください。（土・日・祝日を除く。）
 - ⑥ 申請書類の提出先および申請期間（入学手続期間前です。ご注意ください。）
提出先 秋田大学学生支援・就職課
申請期間 令和2年2月13日（木）・2月14日（金）
- * 入学料免除・徴収猶予に関する問い合わせ先
秋田大学学生支援・就職課 入学料免除・徴収猶予担当 電話 018-889-2265・2263

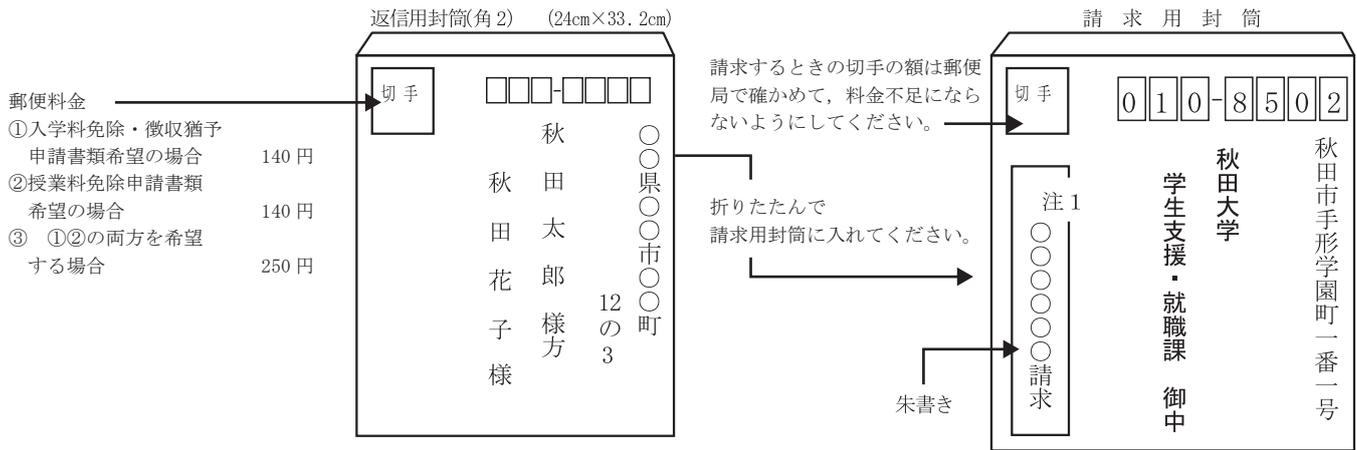
(2) 授業料免除

授業料免除を希望する者は、以下により申請手続を行ってください。

- ① 授業料免除の対象者（次のいずれかに該当する場合には限られます。）
 - ア) 経済的理由により授業料の納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる者
 - イ) 平成31年4月から令和2年3月までの間に本人の学資を主として負担している者（以下「学資負担者」という。）が死亡し、または本人もしくは学資負担者が風水害・地震等の災害を受けたことにより、授業料の納付が著しく困難であると認められる者
 - ② 免除の額
授業料の免除が必要と認められた者に対して、納付すべき前期分授業料の全額、半額または3分の1を免除します。
 - ③ 申請書類の請求方法および請求先
「返信用封筒・請求用封筒の記入例」（51ページ参照）により、請求してください。
請求先：〒010-8502 秋田市手形学園町1番1号 秋田大学学生支援・就職課
* 請求用封筒の左下に「授業料免除申請書類請求」と朱書きしてください。
なお、直接学生支援・就職課の窓口においても請求できます。
 - ④ 請求期間（合格発表の前に請求することができます。）
令和2年1月15日（水）～令和2年3月13日（金）（土・日・祝日、2月25日、3月12日を除く。）
 - ⑤ 申請書類の提出先および申請期間
提出先 秋田大学学生支援・就職課
申請期間 令和2年2月13日（木）～令和2年4月7日（火）（土・日・祝日を除く。）
申請期間内でも受付不可の日があります。令和2年度前期分授業料免除申請要領を確認の上、申請してください。
- * 授業料免除に関する問い合わせ先
秋田大学学生支援・就職課 授業料免除担当 電話 018-889-2265・2263

【返信用封筒・請求用封筒の記入例】

※請求用封筒の宛名は、必ず秋田大学学生支援・就職課と明記してください。



『注1』には、必要に応じ、次のように記入してください。

- ・入学料免除・徴収猶予申請書類請求
- ・授業料免除申請書類請求

6 秋田大学「新入生育英奨学資金」について

本制度は、平成26年に解散した財団法人土崎感恩講より経済的困窮学生支援の目的でいただいた寄附金を原資として、学部新入生を対象に平成30年度から始めた秋田大学独自の給付型奨学金制度です。

秋田大学「新入生育英奨学資金」の給付を希望する者は、以下により申請手続きを行ってください。

※財団法人土崎感恩講は、1830年に現在の秋田市土崎の有志161人が私財を持ち寄り、窮民救済を目的に設立された法人。平成26年に解散。

- ① 新入生育英奨学資金の対象者（次のいずれかに該当する場合に限られます。）
 - ア) 経済的理由により入学料の納付が著しく困難であると認められる者
 - イ) 平成31年4月から令和2年3月までの間に、本人の学資を主として負担している者（以下「学資負担者」という。）が死亡し、または本人もしくは学資負担者が風水害・地震等の災害を受けたことにより、入学料の納付が著しく困難であると認められる者。
- ② 納付の額

新入生育英奨学資金の給付が必要と認められた学生に対して、10万円を給付します。ただし、入学料免除許可者については5万円の給付とします。
- ③ 申請書類の交付先（入学後）

交付先：〒010-8502 秋田市手形学園町1番1号 秋田大学学生支援・就職課
- ④ 申請書類の交付期間（入学後）

令和2年4月6日（月）～令和2年4月14日（火）（土・日を除く。）
- ⑤ 申請書類の提出先および申請期間（入学後）

提出先：秋田大学学生支援・就職課
申請期間：令和2年4月20日（月）～令和2年4月24日（金）（土・日を除く）

* 秋田大学「新入生育英奨学資金」に関する問い合わせ先
秋田大学学生支援・就職課 学生生活担当 電話 018-889-2265・2263

7 学生寮について

【入寮案内請求および申し込みについて】

入寮案内の請求期間、申し込み期間等に関する詳細は令和2年1月上旬(予定)に大学ホームページ (<https://www.akita-u.ac.jp/>)でお知らせします。

入寮案内請求および申請については、**【合否の発表に関わらず】**上記ホームページにある請求期間および申し込み期間になりますので、ホームページで必ずご確認ください。

なお、入寮案内の請求期間および申し込み期間を過ぎてからの受付は、一切いたしませんのでご了承ください。

大学トップページの新着一覧および **【受験生の方へ】** → **【NEWS&TOPICS】** に掲載します。

*モバイル / スマートフォンの方はこちらからご覧いただけます→

【寮・アパート・下宿】 に掲載します。



本学には次の学生寮があります。

なお、選考は**経済的困窮度の高い世帯（生活保護受給世帯、住民税非課税世帯）**から優先し、通学状況（所要時間1.5時間以上等）、家族数を含めた家庭状況により行います。

名称	定員	居室形態	居室面積	寄宿料（月額）	入寮対象者	所在地
にしやちりょう 西谷地寮	130名	個室	約18㎡ (約10.8畳)	20,000円	男子学生 (留学生含む)	秋田市手形字西谷地5-1
てがたりょう 手形寮	40名	個室	約9㎡ (約5.5畳)	5,300円	女子学生 (留学生除く)	秋田市手形田中5-50
ほんどうりょう 本道寮	31名	個室	約16㎡ (約9.7畳)	6,900円		秋田市柳田字糠塚100-3

*寄宿料の他、私生活のために使用する光熱水料、インターネット回線およびNHK受信料等は、自己負担になります。その月額は、10,000円程度です。

【募集人数】

男子寮（西谷地寮） 30名程度（留学生含む）

女子寮（手形寮・本道寮） 20名程度（留学生除く）

【過去倍率】（参考）

男子寮

平成31年度 約4倍

平成30年度 約9倍

平成29年度 約5倍

女子寮

平成31年度 約7倍

平成30年度 約7倍

平成29年度 約4倍

*学生寮に関する問い合わせ先

秋田大学学生支援・就職課 電話 018-889-2240

8 入学手続について

推薦入試の合格者は、次により入学手続を行ってください。

(1) 入学手続期間

令和2年2月18日(火)・2月19日(水)(必着)

(2) 入学手続方法

所定の納付金を納付するとともに、入学手続関係書類を「速達簡易書留」により送付してください。2月19日(水)必着ですので、郵送期間を十分考慮してください。入学手続期間前に届いた書類は、期間中に受付を行います。

なお、詳細については、合格者に送付する入学手続案内でお知らせします。

※ 特別な事情により持参する場合は、入学手続期間内の9時から16時まで秋田大学入試課窓口で受付します。

(3) 納付金

① 入学料 282,000円(予定額)

② 授業料 前期分 267,900円(年額 535,800円)(予定額)

注1) 上記納付金は予定額であり、入学前に入学料が改定された場合には、改定時から入学希望者全員に新入学料が適用されます。また、入学時または在学中に授業料が改定された場合には、改定時から新授業料が適用されます。

2) 入学料および授業料(前期分)を、本学所定の払込取扱票によりゆうちょ銀行または郵便局の窓口で振り込んでください(振込手数料は負担願います)。ATM(現金自動預け払い機)は使用しないでください。

3) 入学手続時に授業料(前期分)を納付できないときは、令和2年4月1日(水)から4月30日(木)までの間に納付してください。

4) 入学手続完了後は、納付した入学料は、いかなる理由があっても返還しません。

5) 入学前1年以内において学資負担者が死亡するなどの理由により、入学料および授業料の納付が著しく困難である者を対象に、入学料および授業料の免除または徴収猶予制度があります。詳細については、50ページを参照してください。

(4) 提出書類等

振替払込受付証明書貼付台紙、**大学入試センター試験受験票**(推薦入試Ⅰの合格者は大学入試センター試験を受験している者、推薦入試Ⅱの合格者は全員)、宣誓書等です。詳細については、合格者に送付する入学手続案内でお知らせします。

(5) 留意事項

① 推薦入試の合格者は、推薦入試の趣旨から、原則として入学辞退を認めません。

ただし、特別な事情があり、当該合格者の推薦を行った在学(出身)学校長から令和2年2月19日(水)までに「推薦入試辞退願」が提出され、本学学長が許可した場合に限り、入学辞退が認められます。

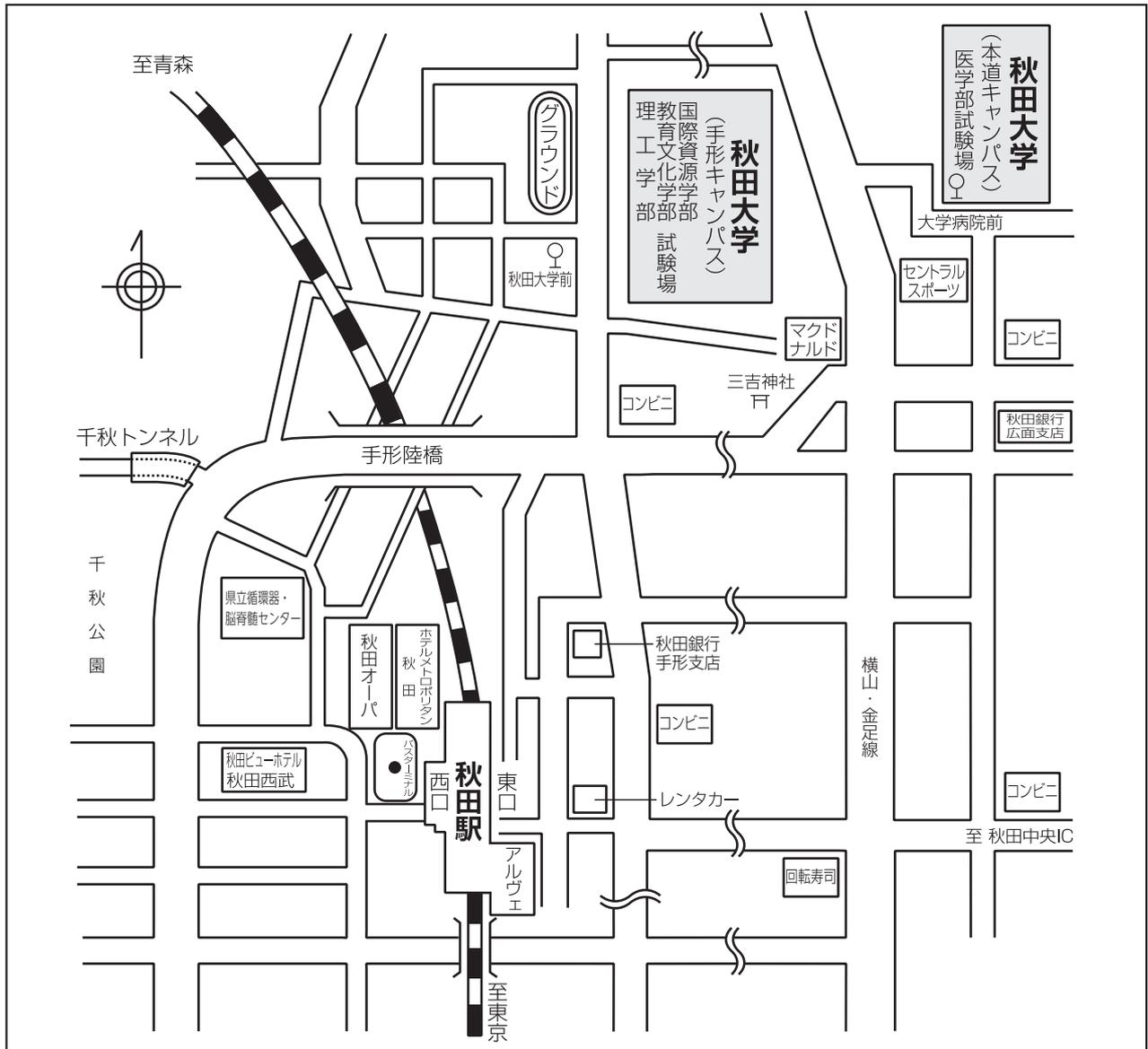
② 推薦入試合格者が入学手続を完了したときは、本学または他の国公立大学の個別学力検査等を受験しても、入学許可を得ることはできません。

③ 推薦入試の合格者が、令和2年2月19日(水)までに入学手続を完了しないときは、推薦入試合格者としての権利を失います。さらに、本学または他の国公立大学の個別学力検査等を受験しても、入学許可を得ることはできませんので、入学または入学辞退のいずれの手続も行わないままとすることのないよう注意してください。

(6) その他

国公立大学の一般入試における合格決定業務を円滑に行うために、推薦入試の合格および入学手続等に関する個人情報(氏名および大学入試センター試験の受験番号に限る。)を、大学入試センターおよび併願先の国公立大学に通知します。

9 試験場の案内



国際資源学部 教育文化学部 試験場(手形キャンパス)の交通案内 理工学部

- 秋田駅西口バスのりば 12番から
秋田中央交通バス 手形山大学病院線

秋田大学前下車 徒歩約1分
- 秋田駅東口から秋田大学手形キャンパスまで
徒歩約15分(約 1.3km)

医学部 試験場(本道キャンパス)の交通案内

- 秋田駅西口バスのりば 12番から
秋田中央交通バス 手形山大学病院線
- 秋田駅西口バスのりば 11番から
秋田中央交通バス 太平線, 松崎団地線,
赤沼線
- 秋田駅東口バスのりば 2番から
秋田中央交通バス 赤沼線

各線とも大学病院前下車 徒歩約5分

お問い合わせ先

- 入学試験に関すること ※問い合わせの際は、必ず志願者本人が行ってください。
入 試 課 TEL：018-889-2256

- 学費・入学料免除・徴収猶予および授業料免除に関すること
学生支援・就職課 TEL：018-889-2265・2263

- 奨学金に関すること
学生支援・就職課 TEL：018-889-2263

- 学生寮に関すること
学生支援・就職課 TEL：018-889-2240

- 検定料・入学料・授業料納入に関すること
経理・調達課 出納担当 TEL：018-889-2234

※ お問い合わせは、下記時間内に行ってください。
月曜日 ～ 金曜日 8:30 ～ 17:00
(ただし、祝日、12月28日～1月5日は除く)

秋田大学入試課

〒010-8502 秋田市手形学園町1番1号

TEL:018-889-2256 FAX:018-835-9924

URL <https://www.akita-u.ac.jp/>

リサイクル適性(B)

この印刷物は、板紙へ
リサイクルできます。